

授業科目名： 日本史概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：古野 貢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)日本の歴史において一般的に通説と見なされている諸見解を批判的に再検証し、その問題点を理解する。現在における歴史学研究の水準を把握し、あわせてそこに内在する問題点について認識する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)科学的論理的思考方法を身につけている。歴史学における通説がどのような背景と事情により成立してきたかを正しく認識している。歴史事象および歴史史料についての正確な知識を身につけている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 日本の歴史を包括的に捉え、歴史学的な思考の習慣化に導くために、いくつかのテーマ（ひとつのテーマを1～3回程度）に分けて集中的に講義し、考える場とする。特に現代社会との関わりを意識しながら授業を進める。			
授業計画 第1回：はじめに 歴史の見方・考え方（導入・ガイダンス） 第2回：地理的環境からみた日本の歴史 日本の位置・地勢・気候・生産 第3回：日本の風土と生活文化（衣） 糸と布、衣服の変遷 第4回：日本の風土と生活文化（食） 前近代～近代の食べ物、食具 第5回：日本の風土と生活文化（住） 住居の移り変わりと特質 第6回：日本の風土と生活文化（年中行事①） 年中行事の起源、形成と展開 第7回：日本の風土と生活文化（年中行事②） 宮廷の年中行事、表御殿・奥御殿の行事 第8回：日本の風土と生活文化（年中行事③） 武家儀礼と年中行事 御成・的始・放生会 第9回：日本の風土と生活文化（祈りと医療） 呪術、祈りと宗教、医学の歴史 第10回：戦争と平和① 武器と技術、戦術と戦法、平和維持活動 第11回：戦争と平和② 社会環境への影響、日本における戦争 第12回：日本における女性の歴史① 女性史研究のいま、女性を通してみる社会 第13回：日本における女性の歴史② 社会における女性の役割の歴史、女性独自の生活史 第14回：日本の文化・芸術 日本における芸術の展開、表現の技法・技術・素材 第15回：おわりに 社会とのかかわり—政治・経済の動向から— 定期試験			
テキスト 適宜プリントなど資料の配付、投影を行う。			
参考書・参考資料等 適宜プリントなど資料の配付を行う。			
学生に対する評価 平常点等配点内訳：授業時に課す小ポート（5点）×14回＝70点、学期末レポート＝30点			

授業科目名： 日本史料概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹内 亮 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)歴史学の素材である史料について、文献史料およびその他の各種史料を概観する。そのうえで日本史学が対象とする史料の種類、史料の収集・検索方法を学び、歴史的諸情報を史料として扱う方法を身につける。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)史料に基づき、客観的に歴史的事象を究明する技法と態度を身につけている。史料の適切な検索方法、収集方法を理解している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 歴史学とは、過去の人々の営みを史料に基づいて考察する学問である。史料とは、過去の人々が残した様々な痕跡を分析・検証し、彼らの営みを知る素材としたものを言う。彼らが日々の活動の中で書き留めた文字だけでなく、その他にも出土遺物、図像、地名や地形、行事や伝承などが過去の痕跡として残されている。現代の我々は、こうした多種多様な痕跡の中から過去の人々の営みを感知し得る情報を引き出し、それを「史料とする」ことで歴史の一端に触れることがようやく可能となる。この授業では、現代の歴史学で研究素材として用いられる様々な史料を概観し、それらの種類や性質を学ぶ。各種史料を探し集める具体的な手法についても教授し、過去の人々が残した痕跡を「史料とする」方法についての総体的な理解を目指す。			
授業計画 第1回：導入―歴史学における史料とは― 第2回：文献史料（1）―文献史料の概要― 第3回：文献史料（2）―日本古代の文献史料― 第4回：文献史料（3）―日本中世の文献史料― 第5回：文献史料（4）―日本近世の文献史料― 第6回：文献史料（5）―日本近代の文献史料― 第7回：文献史料（6）―人名・系図・花押・印章― 第8回：出土史料（1）―考古学と文献史学― 第9回：出土史料（2）―木簡・墨書刻書土器・漆紙― 第10回：金石史料―書記媒体としての金属・石材― 第11回：図像史料―絵画・彫刻・写真・映像― 第12回：地理史料―地図・地名・地割・地形― 第13回：民俗史料―年中行事と伝承― 第14回：文学作品と史料―創作と史実の間― 第15回：まとめ―史料の保存と活用― 定期試験			
テキスト 『歴史の読み方』朝日新聞社 2000年			
参考書・参考資料等 網野善彦ほか『史料論』（岩波講座 日本通史 別巻3）岩波書店 1995年 小山田和夫『入門 史料を読む』吉川弘文館 1997年 佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局 2003年 東野治之『日本古代史料学』岩波書店 2005年 黒田日出男『増補 絵画史料で歴史を読む』（ちくま学芸文庫）筑摩書房 2007年 古尾谷知浩『文献史料・物質資料と古代史研究』塙書房 2010年 足利健亮『地図から読む歴史』（講談社学術文庫）講談社 2012年 大津透ほか『史料論』（岩波講座 日本歴史 第21巻）岩波書店 2015年			
学生に対する評価 授業中に数回の小レポートを課し、その提出状況と内容によって平常点を計上する。期末には授業内容の理解度を測るため筆記試験を行う。授業は指定テキストの内容に添って行うので、試験は基本的にテキストの記述内容から出題する。評価は平常点と試験によって行い、試験をより重視する。			

授業科目名： 東洋史		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員名：畑野 吉則	
						担当形態：単独	
科 目		教科および教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 地理歴史)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史					
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)東洋の歴史における思想、社会のあり方について理解し、歴史を捉える視点を身につけることを目的とする。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)世界史的観点から、東洋の歴史的事象、思想や観念について把握することができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。							
授業の概要 古代文明から清朝末期までの中国の歴史を概説する。そして、近代における欧米列強の中国進出、さらに日本における中国文化の受容を学ぶ。各時代における政治・社会・思想の特徴および周辺諸国との国際関係を通史的に理解することで、歴史展開のメカニズムを捉える。							
授業計画 第1回：ガイダンス ―中国史と考古発見 第2回：先史 ―旧石器時代・新石器時代 第3回：殷・周 ―文明の原点から王朝へ 第4回：春秋・戦国 ― 諸侯の覇権争いと百家争鳴 第5回：秦 ―「統一」と法社会 第6回：前漢 ―領土拡大と科学技術の発展 第7回：後漢 ―三国志の世界 第8回：魏晋・南北朝 ―分裂と融合 第9回：隋唐 ―国際性を持った大帝国 第10回：宋 ―社会・文化の成熟と伝統理念の形成 第11回：元 ―征服王朝と漢化政策 第12回：明 ―最後の漢民族王朝 第13回：清 ―王朝の終末 第14回：欧米列強による中国進出 第15回：日本における中国文化の受容							
テキスト ・テキストは使用しない。毎回配布するレジュメに基本的な資料や年表・地図等を掲載する。							
参考書・参考資料等 ・愛宕元・富谷至編『中国の歴史〈上〉古代―中世』（昭和堂、2005年） ・愛宕元・森田憲司編『中国の歴史〈下〉近世―近現代』（昭和堂、2005年） ・そのほか必要に応じて講義の中で紹介する。							
学生に対する評価 ・期末レポート 60％ ・小テスト 40％（4回、各10％）							

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：加来 奈奈
西洋史	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)ヨーロッパの歴史を中心に、古代、中世、近世、近代、現代といった時代の特徴を概観するとともに、宗教改革、啓蒙思想、国民国家などのいくつかのテーマを取り上げながら、それぞれに関する具体的な事象を考察する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地理を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)過去と現在の変化や諸地域における多様性を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する多角的なまなざしを備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 ヨーロッパの歴史を古代から近現代まで順にそれぞれの時代の流れや特徴を捉えながら学んでいく。その中で、授業において各地域の多様性や過去と現在の差異を理解し、歴史における批判的な視座を身につけ、小レポートなどを通して自らの言葉で歴史の事象を表現する力を養っていく。中学・高校の世界史で学んだ内容を振り返りながら、そこでは学ばなかった事象・人物・できごとについて理解を深める。			
授業計画 第1回：ヨーロッパの歴史の全体的な特徴について 第2回：古代から中世にかけての動向について 第3回：中世ヨーロッパの社会について 第4回：中世ヨーロッパの都市と君主について 第5回：中世後期の変動に変動について 第6回：近世ヨーロッパの特徴について 第7回：近世ヨーロッパの君主と政治について 第8回：近世ヨーロッパの君主と宗教について 第9回：近世ヨーロッパの君主と国家制度について 第10回：啓蒙の時代について 第11回：啓蒙専制君主について 第12回：近代ヨーロッパの国民国家について 第13回：近・現代ヨーロッパの社会と宗教について 第14回：近・現代ヨーロッパの民族と国家について 第15回：現代のヨーロッパ社会について 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 服部良久ほか編『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006年。 小山哲ほか編『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房、2011年。 大津留厚ほか編『ハプスブルク史研究入門―歴史のラビリンスへの招待―』2013年。			
学生に対する評価 定期試験（80％）、授業中に提出するの小レポート（20％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：武重 千尋
近代の世界史	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)近代ヨーロッパにおいて国民国家が形成される過程と、民族意識や国家の構成員たる国民としてのアイデンティティをどのように育成したかについて、歴史学の観点から考察する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)近代の世界史について幅広い知識を身につけている。歴史的な視点を備え、身の回りの現象から歴史的な要素を見出し、説明することができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 近代に成立し、現代の諸問題に直面して変わり続ける歴史学の成立とその展開を学ぶ。また、身の回りの事象から歴史を紐解き、近代に成立した国民国家を考察する。			
授業計画 第1回：講義全体のオリエンテーションー 「歴史とは何か」を考える 第2回：近代歴史学の成立とその限界、新たな歴史学の方法についてー証拠としての史料 第3回：新たな歴史学の方法（1）時間の認識と時代区分について 第4回：新たな歴史学の方法（2）人と人との結びつきについて 第5回：新たな歴史学の方法（3）ミクロストーリーについて 第6回：新たな歴史学の方法（4）比較というまなざしと国民国家論 第7回：新たな歴史学の方法（5）政治と文化、表象や儀式 第8回：新たな歴史学の方法（6）言説とジェンダー 第9回：食文化史（1）デザートの歴史 第10回：食文化史（2）「イタリア料理」の歴史 第11回：食文化史（3）グローバルヒストリーとしてのイギリスの食文化史 ー朝食、フィッシュアンドチップス、キットカット 第12回：民族意識「イタリア人を創る」（1）カフェ、新聞、ジャーナリズムと革命 第13回：民族意識「イタリア人を創る」（2）芸術、絵画、彫刻と民族意識。童話と国民教育。 第14回：民族意識「イタリア人を創る」（3）「記憶の場」としての都市空間 第15回：総括ー歴史学を学ぶことの意味 定期試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等 福井憲彦『歴史学入門』岩波書店、2006年。北村暁夫『イタリア史10講』岩波書店、2019年。 池上俊一『パスタでたどるイタリア史』岩波書店、2011年。			
学生に対する評価 毎時のミニレポート30％、 定期試験70％。			

授業科目名： 女性史概説	教員の免許状取得のための 必修科目（高校地歴） 選択科目（中学社会）	単位数： 2単位	担当教員名：河野(四方) 未央 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)ジェンダーの視点から歴史学を捉え直し、男性中心に記述されてきた歴史を読み替えることを目的とする。ジェンダーの視点を確保する以前と以後とで女性史研究がどのように変容したかを学習する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)ジェンダー分析の視角と方法を知り、歴史・文化・社会における性差の意味を理解している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 歴史学においてジェンダー（性別による歴史的・文化的・社会的な差異及びその知識）分析の手法・視角が取り入れられてから久しく、日本史学においてもジェンダーの視点から男性中心の歴史叙述の「読み替え」が行われてきた。そのような学術成果を用いて改めて高校教科書を読みなおすとどのような違いが生まれてくるのか。本講義では、最初にジェンダーの視点を獲得するまでの日本史学における女性史研究の流れを概説し、その後、ジェンダー分析の視角を学ぶ。次に高校教科書の主要なトピックを通史的にとりあげて「読み替え」を行いながら、上記ジェンダー分析・手法への理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：女性史研究の流れ 第3回：ジェンダー分析の素材―記録史料・絵画・文学・オーラルヒストリー― 第4回：ジェンダーから見る近世(1)―規範・道徳― 第5回：ジェンダーから見る近世(2)―大名家・朝廷の女性たち― 第6回：ジェンダーから見る近世(3)―村落の女性たち― 第7回：ジェンダーから見る近世(4)―都市の女性たち― 第8回：ジェンダーから教科書を読みなおす(1)―天下統一― 第9回：ジェンダーから教科書を読みなおす(2)―幕藩政治― 第10回：ジェンダーから教科書を読みなおす(3)―寺子屋・手習い― 第11回：ジェンダーから教科書を読みなおす(4)―百姓一揆・打ちこわし― 第12回：ジェンダーから教科書を読みなおす(5)―琉球王国とアイヌ― 第13回：ジェンダーから教科書を読みなおす(6)―幕末維新期の政治運動― 第14回：市民の手で女性史を紡ぐ―地域の活動を通じて― 第15回：総括―ジェンダーの視点から現代社会を見つめる― 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』（大月書店、2015） 総合女性史学会編『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』（岩波書店、2021）			
学生に対する評価 定期試験（70％）、平常点（30％）			

授業科目名： 日本美術史	教員の免許状取得のための 必修科目（高校地歴） 選択科目（中学社会）	単位数： 2単位	担当教員名：加茂(山崎) 瑞穂 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)各時代の美術作品を概観し、作品の特徴を知るとともにそれらが生み出された社会的背景を理解する。美術・芸術に対する興味・関心を喚起する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)日本の美術作品の価値・意義を理解している。美術の範疇や作品に対する価値観の変遷について理解している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 古代から近代までの主要な美術作品を提示しながら、作品の特徴や作品が生み出された社会的背景について解説し、日本美術の歴史を概観する。現存する美術・工芸作品を紹介及び解説することにより、作品に対する興味・関心を深め、展覧会等を通じて実際の作品に触れることの重要性を認識する。また、訳語としての「美術」が生まれたのは明治時代である。当時の動向をグローバルな視点から概観し、美術の範疇や作品に対する価値観の変遷、作品を披露する場の形成についても現在とのつながりを念頭に考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンスー「美術」の範疇 第2回：東アジアの影響と正倉院宝物ー飛鳥・奈良時代 第3回：和様化の時代ー平安時代 第4回：王朝美術の展開、京都の動向ー鎌倉・室町時代 第5回：「かざり」の隆盛ー桃山時代 第6回：風俗を描くー江戸時代初期 第7回：出版文化の隆盛、錦絵の登場ー江戸時代中期 第8回：浮世絵の巨匠、新しい表現手法ー江戸時代後期 第9回：国家制度と美術ー明治・大正時代 第10回：超絶技巧の工芸品ージャポニスムと博覧会の時代 第11回：身にまとうー染織 第12回：意匠と色彩ー陶磁 第13回：国内需要と輸出ー漆芸 第14回：民藝と美術ー大正・昭和時代 第15回：授業のまとめー博物館・美術館の歴史			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 山下裕二・高岸輝監修『日本美術史』美術出版社、2014年 辻惟雄『日本美術の歴史 補訂版』東京大学出版会、2021年			
学生に対する評価 レポート：60点、平常点：40点（授業後のコメントシートの提出）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：竹内 亮
日本古代史史料を読むⅠ	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)日本古代の文献史料を正確に読み解く能力と技法を養成する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 平安時代に成立した私撰史書『扶桑略記』を講読する。『扶桑略記』は、官撰史書である六国史をはじめ、日記、伝記、縁起などから様々な記事を引用しているため、内容が多岐にわたり多様な文体にも触れることができる。収録された記事の出典には多くの逸書が含まれており、日本古代史研究では利用する機会が多い史料である。受講者は、『扶桑略記』の中からあらかじめ割り当てられた箇所について、漢文で記された原文の訓読、語釈、現代語訳、関連史料などをまとめたレジュメを事前に作成し、授業の中で順番に発表する。その発表内容に対して質疑や補足説明を行い、読解力の向上を図る。このような実践を積み重ねることで、日本古代史研究に欠かせない漢文史料の扱いに習熟し、その内容を正確に読み解く能力を獲得することを目指す。			
授業計画 第1回：導入 —『扶桑略記』の概要、および講読の進め方について— 第2回：『扶桑略記』講読（1）—扶桑略記第六・聖武天皇養老八年～神亀三年— 第3回：『扶桑略記』講読（2）—扶桑略記第六・聖武天皇神亀四年— 第4回：『扶桑略記』講読（3）—扶桑略記第六・聖武天皇神亀五年～神亀六年— 第5回：『扶桑略記』講読（4）—扶桑略記第六・聖武天皇神亀六年～天平元年— 第6回：『扶桑略記』講読（5）—扶桑略記第六・聖武天皇天平二年～天平五年— 第7回：『扶桑略記』講読（6）—扶桑略記第六・聖武天皇天平六年～天平八年— 第8回：『扶桑略記』講読（7）—扶桑略記抄第二・聖武天皇天平九年～天平十六年— 第9回：『扶桑略記』講読（8）—扶桑略記抄第二・聖武天皇天平十七年— 第10回：『扶桑略記』講読（9）—扶桑略記抄第二・聖武天皇天平十八年～天平十九年— 第11回：『扶桑略記』講読（10）—扶桑略記抄第二・聖武天皇天平二十年～天平廿一年— 第12回：『扶桑略記』講読（11）—扶桑略記抄第二・孝謙天皇天平勝宝元年— 第13回：『扶桑略記』講読（12）—扶桑略記抄第二・孝謙天皇天平勝宝二年～天平勝宝六年— 第14回：『扶桑略記』講読（13）—扶桑略記抄第二・孝謙天皇天平勝宝六年— 第15回：『扶桑略記』講読（14）—扶桑略記抄第二・孝謙天皇天平勝宝七年～天平勝宝八年— 定期試験			
テキスト 『新訂増補 国史大系 第12巻 扶桑略記・帝王編年記』吉川弘文館			
参考書・参考資料等 皆川完一・山本信吉編『国史大系書目解題 下』吉川弘文館 2001年 扶桑略記を読む会編『『扶桑略記』の研究』新典社 2021年			
学生に対する評価 授業中に発表した回数とその内容によって平常点を計上する。期末には史料読解力の向上度を測るため筆記試験を行う。試験問題は『扶桑略記』中の未読箇所から出題する。評価は平常点と試験によって行い、平常点をより重視する。			

授業科目名： 日本中世史料を読む I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：古野 貢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 日本中世の文献史料を正確に読み解く能力と技法を養成する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標) 史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 歴史研究の基礎的能力である史料の基礎的読解力を修得するため、中世史料の講読を行う。 使用する史料は中世の日記史料（「政基公旅引付」）を用い、史料の読解力を鍛えるとともに、記された内容の歴史的背景や社会制度、社会環境等についての理解をはかる。 毎回報告者を割り当て、該当する箇所の読み下し、解釈、語句等の確認、評価について発表する。			
授業計画 第1回：導入・ガイダンス 第2回：史料講読 報告者による発表と解説① 文亀元年3月吉曜引付 第3回：史料講読 報告者による発表と解説② 文亀元年3月27日・28日条 第4回：史料講読 報告者による発表と解説③ 文亀元年3月29日・30日条 第5回：史料講読 報告者による発表と解説④ 文亀元年4月1日～3日条 第6回：史料講読 報告者による発表と解説⑤ 文亀元年4月4日・5日条 第7回：史料講読 報告者による発表と解説⑥ 文亀元年4月6日・7日条 第8回：史料講読 報告者による発表と解説⑦ 文亀元年4月8日・9日条 第9回：史料講読 報告者による発表と解説⑧ 文亀元年4月10日・11日条 第10回：史料講読 報告者による発表と解説⑨ 文亀元年4月12日～14日条 第11回：史料講読 報告者による発表と解説⑩ 文亀元年4月15日～20日条 第12回：史料講読 報告者による発表と解説⑪ 文亀元年4月21日～24日条 第13回：史料講読 報告者による発表と解説⑫ 文亀元年4月25日・26日条 第14回：史料講読 報告者による発表と解説⑬ 文亀元年4月27日～29日条 第15回：史料講読の課題 受講者全員で確認し、今後の学習・研究に必要なスキル等を共有する。 定期試験 史料を実際に読み、評価する能力を問う。			
テキスト 必要な史料はコピー等をして配布する。			
参考書・参考資料等 必要に応じて提示する。			
学生に対する評価 授業中の担当課題の報告・発表45%、授業へのかかわり（質問など）20%、学期末試験（レポート）35%			

授業科目名： 日本近世史史料を読む Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：河野(四方) 未央 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 日本近世の文献史料を正確に読み解く能力と技法を養成する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標) 史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 『兵庫県史』『西宮市史』『尼崎市史』『芦屋市史』など、阪神間を中心とした自治体史の史(資)料編に掲載されている活字史料をテキストとして、用語の調べ方など日本近世史研究に必要な基本的な技能を身に着け、史料読解力を習得する。自治体史の本文編をはじめ関連する文献を紹介し、時代背景を学ぶなかで史料の内容の理解を深める。また、史料分析の結果から、課題を設定し、その後関連史料・文献にたどり着くための具体的な方法（文献調査方法等）を学び、論文執筆にいたる研究手法の基礎を身に着ける。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：近世史料を解読するためのツールとその留意点—辞書・インターネット・参考文献— 第3回：史料の時代背景を理解する—参考文献とその探し方— 第4回：史料の多角的な検証(1)—史料批判の方法を学ぶ— 第5回：史料の多角的な検証(2)—比較検討・フィールドワーク— 第6回：史料読解の実践(1) —金・銀・銭の単位と統計①— 第7回：史料読解の実践(2) —土地・長さの単位と統計②— 第8回：史料読解の実践(3) —領主法— 第9回：史料読解の実践(4) —村の掟・町の掟— 第10回：史料読解の実践(5)—願書・届出— 第11回：史料読解の実践(6)—訴訟史料を読む・山論・水論— 第12回：史料読解の実践(7)—訴訟の手続き— 第13回：史料読解の実践(8)—日記・風聞記— 第14回：史料読解の実践(9)—家系図・由緒— 第15回：総括—史料読解から、探求すべき“問い”へ— 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『兵庫県史』『西宮市史』『尼崎市史』『芦屋市史』など自治体史の史料編。授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 定期試験（50％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）、平常点（30％）			

授業科目名： 日本近現代史史料を読むⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：本井 優太郎 担当形態：単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 日本近現代の文献史料を正確に読み解く能力と技法を養成する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標) 史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 日本近現代の文献史料の講読を通じて、当該期の内外情勢や政治・社会思想を学ぶ。本年度は、明治初期～前期の対アジア認識に関する新聞の論説・投書と、近代日本を代表する政党政治家のひとりである原敬が著した日記(『原敬日記』)のうち、原内閣誕生(1918年9月29日)の「前夜」にあたる1918年9月12日～25日の日記を取りあげる。その精読を進めるなかで、日本の近代がどのように歩みを始め、そして現代に繋がってゆくかということを考察する。			
授業計画 第1回 ガイダンスと導入 日本近現代史史料の概要と特質 第2回 新聞史料(1) 「支那決シテ輕侮スベカラザルナリ」(『東京日日新聞』1875年11月28日付、無記名) 第3回 新聞史料(2) 「清国輕視ス可ラザル論」(『郵便報知新聞』1878年1月12日付、杉山繁筆) 第4回 新聞史料(3) 「東洋連衡論」(『郵便報知新聞』1879年11月19日付、草間時福筆) 第5回 新聞史料(4) 「日支聯合果シテ恃ムベキ耶」(『東京横浜毎日新聞』1880年1月10・15日付投書) 第6回 新聞史料(5) 「開化ト開化ノ戦争」(『朝野新聞』1884年9月28日付、関輪正路筆) 第7回 新聞史料(6) 「脱亜論」(『時事新報』1885年3月16日、福沢諭吉筆) 第8回 新聞史料(終) 史料にみる明治初期～前期日本の対アジア認識の展開について 第9回 『原敬日記』(1) 1918年9月12～16日 第10回 『原敬日記』(2) 1918年9月17～19日 第11回 『原敬日記』(3) 1918年9月20日 第12回 『原敬日記』(4) 1918年9月22日 第13回 『原敬日記』(5) 1918年9月23日 第14回 『原敬日記』(6) 1918年9月24～25日 第15回 『原敬日記』(終) 史料にみる大正期の内外情勢と原の役割について			
テキスト 芝原拓自・猪飼隆明・池田正博校註『日本近代思想大系12 対外觀』（岩波書店、1988年）、原奎一郎・林茂編『原敬日記』第五卷(福村出版、1965年)			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(平成29年告示、文部科学省)、中学校学習指導要領解説(社会編)(平成29年告示、文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年告示、文部科学省)、高等学校学習指導要領解説(地理歴史編)(平成30年告示、文部科学省)			
学生に対する評価 定期レポート 70%、解説の習熟度(予習・復習など授業外学習の取り組みも含む) 30%			

授業科目名： 人文地理学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：松山 薫	
						担当形態：単独	
科 目		教科および教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 地理歴史)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学					
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)人と空間、環境との関わりについて理解するために、人文地理学の主要な一分野である都市地理学の基礎的な知識と考え方を身につけることを目的とする。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)都市地理学の基本的な諸概念を理解し、人と空間、環境について知識と技能を備える。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。							
授業の概要 都市地理学の古典的理論から、近年の都市をめぐる諸問題まで、都市を自然環境をも含めた空間的視野から総合的に捉える方法を学ぶ。諸外国を含めたさまざまな都市の特徴を知ること、さらにそれらを通じて国内の身近な都市の状況を相対的・客観的に分析する視角を養うことを目的とする。							
授業計画 第1回：都市の学問的定義 第2回：都市の統計的定義 第3回：都市の空間的範囲ー都市人口とは何か 第4回：都市の分類 第5回：都市の立地と自然環境（1） 伝統的都市（城下町） 第6回：都市の立地と自然環境（2） 伝統的都市（港町） 第7回：都市の立地と自然環境（3） 地形改編と都市（ニュータウン） 第8回：都市の街路形態 第9回：中心地理論 第10回：都市システム論 第11回：都市の内部構造論 第12回：都市化と都市問題 第13回：土地利用の歴史的慣性 第14回：都市と緑地 第15回：都市とランドマーク 定期試験							
テキスト 中学・高校で使った地図帳。持っていない人は、二宮書店編集部編『高等地図帳2024・2025』を購入すること。							
参考書・参考資料等 授業中に紹介。また、適宜資料を配布する。							
学生に対する評価 定期試験（60％）、小テスト（40％）							

授業科目名： 地理学概説	教員の免許状取得のための 必修科目（中学社会） 選択科目（高校地歴）	単位数： 2単位	担当教員名：松山 薫 担当形態：単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目 （中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）地理学の学問的特質、内容について学ぶことを目的とする。地域、環境、景観などをキーワードに、人々が暮らす地域、生活について考察する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 （到達目標）地理学についての基本的な見方、考え方を学んだうえで、その現代的課題について自ら考察し、探求することができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 自然と人間のかかわり			
授業計画 第1回：地理学の今日的課題 第2回：地理学のあゆみ （1）ギリシャ・ローマ時代 第3回：地理学のあゆみ （2）中世～近世ヨーロッパ 第4回：地理学のあゆみ （3）近代 ヨーロッパと日本 第5回：環境論の系譜 第6回：地域の概念 第7回：地域構造論 第8回：立地論 第9回：計量革命・人文主義地理学 第10回：歴史地理学 第11回：地理教科書の古典再考 （1）ケッペンの気候区分 第12回：地理教科書の古典再考 （2）地形用語の変遷 第13回：地理教科書の古典再考 （3）村落の形態 第14回：地理教科書の古典再考 （4）全国総合開発計画 第15回：教科書にみる地理と歴史の接点 定期試験			
テキスト 中学・高校で使った地図帳。持っていない人は、二宮書店編集部編『高等地図帳2024-2025』を購入すること。			
参考書・参考資料等 授業中に紹介。また、適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 定期試験（60％）、小テスト（40％）			

授業科目名： 地誌学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松山 薫 担当形態：単独
科 目		教科および教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)地域のありようを様々な視点から総体的に捉えることを目的とする。あわせて、地理学と歴史学との接点についても考える。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することの一つの目的とする。 (到達目標)自然環境とそこに暮らす人々の生活様式について比較検討しながら評価することができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				
授業の概要 地誌とは、ある特定の地域に関する記述であり、自然環境と社会環境の双方の視点が含まれる。本授業では、まず古来より様々な主体によって多様な目的のために編纂されてきた地誌を、地誌学的な観点から紹介する。次に、日本の自然環境とそれに対応した人々の生活に関して学ぶ。さらに、学校教育における地誌教育や一般教養の需要に応える、様々な媒体を通した地理コンテンツについて考える。				
授業計画 第1回：地誌／地誌学とは何か 第2回：ヨーロッパにおける世界認識 第3回：日本における地誌書の系譜（1） 近代以前－官撰地誌 第4回：日本における地誌書の系譜（2） 近代以前－私撰地誌 第5回：日本における地誌書の系譜（3） 近代以降－官撰地誌 第6回：日本における地誌書の系譜（4） 近代以降－私撰地誌 第7回：自然環境と人々の生活（1） 日本の地形 第8回：自然環境と人々の生活（2） 治水事業と地域 第9回：自然環境と人々の生活（3） 日本の気候、気候景観 第10回：地域資源としての緯度経度 第11回：学校教育における地誌教育 第12回：地理教育と多様な地理コンテンツ（1） 地理唱歌 第13回：地理教育と多様な地理コンテンツ（2） 県民歌 第14回：地理教育と多様な地理コンテンツ（3） 郷土かるた 第15回：地理教育と多様な地理コンテンツ（4） 都道府県擬人化漫画、全体まとめ 定期試験は実施しない。				
テキスト 中学・高校で使った地図帳。持っていない人は、二宮書店編集部編『高等地図帳2024・2025』を購入すること。				
参考書・参考資料等 授業中に紹介。また、適宜資料を配布する。				
学生に対する評価 小テスト（70％）、課題（30％）。				

授業科目名： 自然地理学	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校） 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：浅田 晴久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)日本および世界各地の自然を学び、自然環境の諸要素や相互のつながり、また人々の生活との関係を理解する。現代の人間が直面する課題に対し、自然環境と人間との相互作用の関係を考察・説明する能力を獲得することを目指す。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。 (到達目標)自然地理学の考え方を理解し、地形や気象について一定の知識を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 日本および世界各地における社会や文化、産業などの人文現象の成立過程には、地域固有の自然環境が深く関わっており、現在の環境問題の解明にも自然現象のメカニズムに関する知識は欠かすことができない。本講義では、地形・水文・気候・植生など、自然地理学の基礎的事項について講義する。自然環境の成り立ちから、自然災害や地球温暖化といった現代社会に関わることまで広く紹介する。常に社会との関わりを意識することで、一定の自然環境下でいかに人間が暮らすべきかという視点を重視する。			
授業計画 第1回：自然地理学とは 第2回：プレートテクトニクスと大地形 第3回：山地と丘陵の地形 第4回：平野と海岸の地形 第5回：水の循環 第6回：大気の種類と循環 第7回：世界の気候と雨 第8回：海洋の循環とエルニーニョ 第9回：モンスーンと季節 第10回：気象災害 第11回：地震と火山 第12回：第四紀の環境変動 第13回：気候と動植物 第14回：温暖化と気候危機 第15回：人新世と21世紀の自然環境 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 自然地理学概論（高橋日出男・小泉武栄著、朝倉出版） みわたす・つなげる自然地理学（小野映介・吉田圭一郎著、古今書院）			
学生に対する評価 定期試験（80％）、毎回の授業後に提出するミニレポート（20％）			

授業科目名： 地理と情報	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松山 薫 担当形態：単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目 （中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）自ら地図を作成し、地理学的分析手法を身につけることを目的とする。様々なデータから地図化、分析ができるようになる。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 （到達目標）地図および地形図を読み解く技術を身につけている。GISの基礎的な利用方法を修得している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 地理学の視点から、地域にかかわる諸課題を分析するうえで欠かすことのできない基本的な地域分析手法を学ぶ。具体的には、地図や空中写真などの空間データや各種統計データ、文献資料などの収集と利用方法を学んだうえで、各自主題図を作成し、地域の特徴を理解する。			
授業計画 第1回：地理学と資料 第2回：地図とは何か、地図から何がわかるのか 第3回：地形図の種類と入手方法 第4回：地形図読図（1）地図記号 第5回：地形図読図（2）等高線 第6回：旧版地形図の魅力 第7回：統計の探し方 第8回：統計の利用，主題図作成 第9回：文献資料の探し方 第10回：郷土資料：文字資料と視覚資料 第11回：図書館における資料探索 第12回：GISの基礎知識 第13回：GISを用いた主題図の作成（1）階級区分図など 第14回：GIS主題図の作成（2）図形表現図など 第15回：発表			
テキスト 指定しない。適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 日本地図センター編（2022）：『地図記号のうつりかわり 地形図図式・記号の変遷』 谷 謙二（2022）：『フリーGISソフトMANDARA10入門 増補版』古今書院			
学生に対する評価 小テスト（20％）、発表（40％）、提出物（40％）			

授業科目名： 法律学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大野 浩正
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 日常生活を送るうえで身につけておきたい法の諸側面を教授し、ひとりひとりの法意識の向上に努める。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標) 身近なところに存在する「法」に気づき、法がどのようにして私たちの生活を規制し、あるいは保護しているのかを理解している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				
授業の概要 日常生活の中で法律の問題を意識することはほとんどない。しかし実は法律は世の中の隅々にまで及んでいて、安心して幸福生活を送るためには避けて通れないのが実情である。問題が起きてから勉強するのではなく、今のうちに一通り学んでおくことが、自分と大切な人を守るために大いに役立つ。授業はレジュメ又はパワーポイントを用いて講義形式で行う。身近な法律問題を取り上げるので、想像力を働かせ、法律と生活の関わりを実感し、体得することを目指す。				
授業計画 以下の各テーマについて、身近な法律問題やトラブルを取り上げ、問題解決に役立つ知識を身に付けるとともに、法律の考え方を学ぶことの意味を探る。 第1回 導入ー日常生活と法 第2回 子どもと法：権利能力、未成年・成年、親子関係、親権、少年法 第3回 学校と法：教育を受ける権利、学問の自由、学校での事故、いじめ問題 第4回 婚姻と法：婚姻の効果、事実婚、離婚、親権 第5回 相続と法：死亡と相続、相続人と相続分、遺言 第6回 高齢者・障がい者と法：成年後見制度、介護 第7回 契約と法：契約自由の原則、売買、贈与、賃貸借、請負 第8回 消費者と法：悪徳商法、消費者被害、クーリングオフ、集団訴訟 第9回 情報と法：表現の自由、著作権・肖像権、個人情報、ネット社会 第10回 仕事と法：職業選択の自由、労働基準法、アルバイト、長時間労働、ハラスメント 第11回 事故と法：交通事故、損害賠償、被害者救済、保険、民事裁判 第12回 犯罪と法：犯罪と刑罰、刑事裁判、刑事弁護、警察や検察の役割 第13回 憲法が目指すもの①基本的人権：個人の尊重、幸福追求権、さまざまな自由権 第14回 憲法が目指すもの②平等：男女差別、夫婦別姓、ジェンダー、LGBT、外国人差別 第15回 憲法が目指すもの③社会権など：社会保障、生活保護、選挙制度 定期試験				
テキスト 小川富之他編『法学-人の一生と法律とのかかわり』（八千代出版、2018年）				
参考書・参考資料等 松井茂記他『はじめての法律学 - HとJの物語（第6版）』（有斐閣、2020年） 江藤祥平他『大学生生活と法学』（有斐閣、2022年）				
学生に対する評価 授業毎の復習テスト30%（2%×15回）、レポート70%として評価する。				

授業科目名： 地域政策論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：河野(四方) 未央 担当形態：単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 地方公共団体における行政の機能、仕組みや政策立案の具体的な過程、議会の役割など、地域社会の発展に向けた地域政策を理解するうえで必要な知識を修得する。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標) 地域づくりの実態に学び、地域政策における現状と課題を把握している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 最初に、戦後以降のわが国の地域政策の歩みとともに、地方公共団体における行政の機能、仕組みや政策立案の具体的な過程、議会の役割など地域政策を理解するうえで必要な知識を概観する。もっとも現代日本において地域政策は、行政のみでなく住民をはじめNPO・事業所など地域のステークホルダーが関わり合いながら策定、実施していくことが求められている。受講者自身が地域づくりを担う主体・実践者としての知識とその活用が図れるよう実践形式の演習（国ないし地方公共団体が提供する統計資料の活用等）のほか、ゲストスピーカーとして公務員、あるいは地域づくりに取り組む団体のキーパーソンを招き、地域政策における現状・課題を学ぶ場をもつ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：地域のなりたち（1）―国の政策とその歴史― 第3回：地域のなりたち（2）―地方自治とその仕組み― 第4回：地域のなりたち（3）―ガバメントからガバナンスへ― 第5回：地域を知る（1）―公文書・歴史的公文書― 第6回：地域を知る（2）―統計・オープンデータ― 第7回：地域を知る（3）―民間所在史料（ビジュアル史料とオーラルヒストリーを含む）― 第8回：地域を知る（4）―地域で活動する人と出会う― ※ゲストスピーカーによる実践報告と質疑応答 第9回：地域が抱える課題（1）―少子高齢社会― 第10回：地域が抱える課題（2）―グローバル化― 第11回：地域が抱える課題（3）―マイノリティと価値観の多様化― 第12回：地域が抱える課題（4）―災害と復興― 第13回：地域で生きる・活動する（1）―「当事者」として見つめる― 第14回：地域で生きる・活動する（2）―地域の「未来」を考える― 第15回：総括 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 家中茂・藤井正・小野達也・山下博樹編著『新版地域政策入門―地域創造の時代に―』（ミネルヴァ書房、2019） 奥村弘・村井良介・木村修二編『地域歴史遺産と現代社会』（神戸大学出版会、2018） RESAS(地域経済分析システム) https://resas.go.jp/#/13/13101			
学生に対する評価 定期試験（50％）、中間レポート（第9回授業までに1度提出、20％）、平常点（30％）			

授業科目名： 社会学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：西尾 亜希子 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」					
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)社会学の立場と方法により現代社会を分析・検証し、それが直面する諸問題を考察する。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)現代社会に内在する諸問題について、それを改善・解決に導くよう主体的に考えることができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。							
授業の概要 社会学の研究対象である「社会」とは何を意味するものなのか、またその「社会」を分析する社会学とはどのような学問かについて幅広く学んだ後、「出生」、「学ぶ・教える」、「働く」、「結婚・家族」、「死」などさまざまな人生のイベントに焦点を絞り込み、それらの課題を社会学的見地に基づいて考える。							
授業計画 第1回：授業内容と授業計画の説明 第2回：人と「社会」とのかかわり方：「社会を理解する」というかかわり方、概念の理解など 第3回：出生：なぜ子どもが生まれなくなっているのか 第4回：出生：妊娠、出産という経験はどのように変わっているのか 第5回：学ぶ・教える：なぜ学ぶことが「義務」になっているのか（1）教育、経済、社会 第6回：学ぶ・教える：なぜ学ぶことが「義務」になっているのか（2）教育と不平等、小課題 第7回：学ぶ・教える：学校という場所とはどのような場所か（1）「学校」の内部を知る 第8回：学ぶ・教える：学校という場所とはどのような場所か（2）「授業」を知る 第9回：働く：「働くこと」の社会的な位置づけ 第10回：働く：「社会」のなかで働くこと、小課題2 第11回：結婚・家族：近代化は家族をどう変えてきたのか（1）産業化の影響 第12回：結婚・家族：近代化は家族をどう変えてきたのか（2）家族の変容 第13回：結婚・家族：家族であるとはどのようなことか 第14回：死：社会学は自殺をどう扱ってきたか（1）日本人の自殺をめぐる現状、レポート第1 第15回：死：社会学は自殺をどう扱ってきたか（2）自殺への研究的アプローチ、まとめ							
テキスト 筒井淳也・前田泰樹（2017）『社会学入門—社会とのかかわり方』有斐閣							
参考書・参考資料等 長谷川公一・浜日出夫他（2019）『社会学 新版（New Liberal Arts Selection）』有斐閣。							
学生に対する評価 小課題2回（各25%、合計50%）、レポート（50%）							

授業科目名： 経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤井 善仁
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)経済学全般について、マクロとミクロの双方の観点に即し、初歩的な概念・知識および考え方を学ぶ。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)日本経済の歴史と現状ならびに国際経済の動向を把握している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 我々のくらしを取り巻く経済現象を見る際、ミクロ的視点からみるものとマクロ的視点からみるものがあるが、両者の視点を区別して、現実の経済ニュースを分類できるように説明をしていくことを重視する。また、日本経済を理解するために必須の知識である「金融」と「財政」という経済政策の違いを理解し、新聞の経済記事を自力で読み解くことが可能になる最低限の分析ツールの基礎を説明していく。			
授業計画 第1回：経済と経済学 経済と経済学の違いは何かという説明を通じ、現実経済を見るために必要な力について理解する。 第2回：需要と供給 消費者（家計）と生産者（企業）の特徴を理解し、需要曲線と供給曲線の性質を理解する。 第3回：市場均衡と完全競争市場 市場の性質を理解し、市場均衡の仕組みを理解することで現実経済の理解を深める。 第4回： 不完全競争市場 独占企業、寡占企業を通じて、企業形態やその行動規準を理解する。 第5回： 市場の失敗 外部性、公共財、情報の経済学の基礎を理解する。 第6回：ゲーム理論の基礎 現実経済を理解するために重要な概念である囚人のジレンマやナッシュ均衡について理解する。 第7回： 国際貿易理論 貿易の利益とリカードの比較生産費説を理解する。 第8回：国内総生産（GDP）の基礎 一国の経済規模を表す国内総生産（GDP）の理解とマクロ経済指標について理解する。 第9回：国民経済計算の基礎 三面等価の原則と国内総支出（GDE）について理解する。 第10回：貨幣と利子率 金利（利子率）と債券の関係を理解し、割引現在価値の基礎概念を理解する。 第11回：金融の基礎 中央銀行の役割と信用創造のメカニズムを理解する。 第12回：金融政策の基礎 我が国の金融制度と金融政策を理解する。 第13回：財政の基礎 我が国の予算制度および財政政策について理解する。 第14回：失業とインフレーション 失業とは何か、およびインフレーションとデフレーションの性質を理解する。 第15回：国際金融・国際マクロ経済学 外国為替、外国為替市場の仕組み、円高、円安の性質を理解する。			
定期試験			
テキスト 指定なし。毎時講義ノートを配布する。			
参考書・参考資料等 菅原晃『中高の教科書でわかる経済学 ミクロ篇』河出書房新社 2017年 菅原晃『中高の教科書でわかる経済学 マクロ篇』河出書房新社 2017年			
学生に対する評価 定期試験：80%、授業後のコメントシート：20%			

授業科目名： 倫理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺井 朋子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)倫理学における西洋・東洋の過去の代表的な諸理論について成り立ちや概要を学び、その現代的意義について考察する。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)哲学・倫理学的思想の初歩を修得している。社会に存在する倫理的規範について自ら問い直すことができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 授業の前半では倫理学がどのような学問であるのかについて具体的なトピックに則しながら学び、中学校社会科の教育における倫理学の役割について考える。後半では、現代社会や学校現場において生じている倫理的問題について、自らの考察を深めるとともに、グループディスカッション等を通じて他者との意見交換を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：倫理学の基礎①倫理学とは：倫理学の歴史と分野 第3回：倫理学の基礎②幸福：幸福とはなにか 第4回：倫理学の基礎③義務と徳：人間としてなすべきこと（小テスト①） 第5回：倫理学の基礎④道徳判断：正しい判断とは 第6回：現代社会の倫理①喫煙の自由（小テスト②） 第7回：現代社会の倫理②功利主義 第8回：現代社会の倫理③災害場面 第9回：現代社会の倫理④動物愛護 第10回：中間まとめ（レポート①） 第11回：教職倫理①教師の責任と教職倫理 第12回：教職倫理②教師の生活と教師を取り巻く環境 第13回：教職倫理③体罰といじめの未然防止 第14回：教職倫理④教師はどうあるべきか 第15回：最終まとめ（レポート②） 定期試験 テキスト なし			
参考書・参考資料等 実践・倫理学―現代の問題を考えるために 児玉聡 勁草書房 2020年			
学生に対する評価 小テスト20点：10点×2回、提出物30点：3点×10回、 レポート25点：10点＋15点、定期試験25点			

授業科目名： 日本思想史		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：本井 優太郎 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 古代から現代に至るまでの日本における思想的展開を概括的に理解したうえで、各時代の政治・社会・宗教思想の特質を把握することを目的とする。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標) 代表的な思想家の論説についてその概要と特質を理解し、文学・芸術作品の思想的背景を把握している。それぞれの思想が日本の国家・社会・文化の形成に果たした役割を認識している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				
授業の概要 古代から現代までの日本における主要な思想を編年的に取り上げ、その歴史的展開を学ぶ。各時代の政治・経済・社会・文化との関連性を意識しながら、代表的な思想家の論説や文芸作品などの具体的な史料をもとに、思想の概要と特質を理解する。				
授業計画 第1回:導入「思想」とは何か 第2回:古代(1) 国家成立期の思想 ―仏教の導入と普及― 第3回:古代(2) 「国風」の思想 ―貴族文化の隆盛― 第4回:中世(1) 「道理」と「徳政」―武家政権の政治思想― 第5回:中世(2) 宗教思想の展開 ―中世の仏教と神道― 第6回:中世(3) 「無常」の思想 ―中世文学の世界観― 第7回:近世(1) 儒学・蘭学・国学 ―江戸時代の学問と思想― 第8回:近世(2) 家、職業、生活、娯楽 ―百姓・町人の思想― 第9回:近世(3) 幕末の日本 ―政治観と対外観― 第10回:近代(1) 「文明開化」の経験 ―伝統と西欧化の狭間で― 第11回:近代(2) 大正デモクラシー ―戦間期日本の民主主義― 第12回:近代(3) ナショナリズム ―「国民」の形成― 第13回:現代(1) 戦後民主主義 ―社会運動の隆盛― 第14回:現代(2) 新自由主義の時代 ―「小さな政府」と市場競争― 第15回:現代(3) ポスト・モダニズム ―「近代」の克服とその模索― 定期試験				
テキスト 毎回、授業レジュメ・資料レジュメを配布する。				
参考書・参考資料等 佐藤弘夫・平山洋ほか編『概説日本思想史 増補版』（ミネルヴァ書房、2020年）、中学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省）、中学校学習指導要領解説（社会編）（平成29年告示、文部科学省）				
学生に対する評価 定期試験 60%、毎回の授業課題の提出 40%				

授業科目名： 信仰の民俗学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：武藤 康弘 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)過去から現代に至る、人々の信仰の実態およびその精神性について学ぶことを目的とする。自然災害や伝染病などの災禍に遭遇したときに人々がどのように認識し対処してきたか、を学習する。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。 (到達目標)信仰が日常生活のなかで、また非常時において、どのように働いていたかを理解している。祭礼・儀礼と信仰との関係について知識を身につけている。日本の稲作とアジアの稲作との関係、稲作と民俗宗教、民俗芸能との関係性を理解する能力を涵養します。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				
授業の概要 稲作と農耕儀礼、神事芸能との関係性について、近畿地方の農耕儀礼に焦点をあてて、地域的特性と歴史的な展開過程を解明します。寺院の修正会・修二会等の年初の除災行事から春先の農業の予祝儀礼である御田植祭、さらに夏の疫病除けの祇園祭から盆の風流芸能について、稲作と農耕儀礼、神事芸能との関係性について、文化人類学と民俗学の視点から解説します。				
授業計画 第1回：年初の除災儀礼1寺院における修正会と修二会 第2回：年初の除災儀礼2村の神社や寺院の年初の行事 第3回：神仏習合の諸様相 神と仏への祈りのかたち 第4回：稲作と稲魂の信仰 米作りへの祈りのかたち 第5回：農耕儀礼の諸様相 子供の暴れと異性装 第6回：鎮華祭と蓮華会 神仏へ花を手向けて祈願 第7回：祈雨と風鎮の祭礼 降雨祈願と台風除けの祭 第8回：牛頭天王への信仰と祭礼 第9回：蘇民将来への信仰と祭礼 第10回：御霊会と祇園祭 第11回：急々如律令呪符とその呪力 陰陽師の信仰 第12回：道教系信仰の諸様相 鍾馗と石敢當 第13回：地藏信仰の諸様相 第14回：先祖崇拝と盆行事 第15回：盆行事と風流芸能 定期試験				
テキスト 使用しない、授業では毎回印刷した資料を配布する。				
参考書・参考資料等 『映像で見る奈良まつり歳時記』 ナカニシヤ出版				
学生に対する評価 学期末の試験80%、毎回の授業で提出するコメントシート20%				

授業科目名： 社会・地歴科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大山 正博 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程及び指導法に関する専門的事項 ・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1. 中学校社会科における教育目標と育成したい資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について理解を深める。 2. 背景となる「教科に関する専門的事項」について、指導法という観点から理解する。 （到達目標） ①学習指導要領における中学校社会科の目標および主な内容並びに全体構造を理解している。 ②中学校社会科の個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 ③中学校社会科の学習評価の考え方を理解している。 ④中学校社会科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 ⑤中学校社会科の授業を構想する能力を身につける。			
授業の概要 本授業では、中学校社会科の授業を行うための基礎的事項を理解する。その際、課題追求型授業、課題解決型授業などの授業形式について具体事例を通して学び、各自が将来行う授業のイメージをつかむ。また、学習指導要領解説を随時参照し、そこで示される目標、内容、資質・能力などについて理解する。 授業は講義形式とグループワークを併用し、学習したことを他者との意見交流を踏まえて定着させることをめざす。			
授業計画 第1回：オリエンテーションー社会科は何の役に立つのか？ー 第2回：社会科の目標①ー平和で民主的な国家及び社会の形成者とは何か？ー 第3回：社会科の目標②ー公民的な資質・能力とは何か？ー 第4回：社会科の目標③ー単元の目標をつくってみようー 第5回：社会科の方法①ー「なぜ（why）」を考える課題追求型授業ー 第6回：社会科の方法②ー単元の問いをつくってみようー 第7回：社会科の方法③ー「どのようにして（how）」を考える課題解決型授業ー 第8回：社会科の方法④ー単元から題材を探してみようー 第9回：社会科の方法⑤ー何を、どのように評価するか？ー 第10回：社会科の方法⑥ー情報機器及び教材の活用法ー 第11回：教材研究発表の準備①ー発表箇所の選定、学習指導案の考え方・書き方ー 第12回：教材研究発表の準備②ー学習指導案作成を見据えた発表用ワークシートの作成ー 第13回：教材研究発表会①ー地歴分野ー 第14回：教材研究発表会②ー公民分野ー 第15回：学習内容の相互交流会 定期試験			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社			
参考書・参考資料等 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社			
学生に対する評価 定期試験70% 授業中の課題30%			

授業科目名： 社会・地歴科指導法Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大山 正博 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育課程及び指導法に関する専門的事項 ・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1. 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、中学校社会科及び高校地歴科の授業を構築する力を身につける。 2. 中学校社会科及び高校地歴科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶ。 （到達目標） ①生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。②中学校社会科及び高校地歴科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。				
授業の概要 本授業では、中学校社会と高校地歴科の授業づくりについての基礎的事項を理解するとともに、最終的に学習指導案を作成できるようになることをめざす。その際、地理的分野、歴史的分野の授業形式について具体事例を通して学び、各自が将来行う授業のイメージをつかむ。また、学習指導要領解説を随時参照し、そこで示される目標、内容、資質・能力などについて理解する。 授業は講義形式とグループワークを併用し、学習したことを他者との意見交流を踏まえて定着させることをめざす。				
授業計画 第1回：オリエンテーションー社会科はおもしろいのか？ー 第2回：社会科授業づくりの基礎①ー教育内容・教材・教授行為・学習者ー 第3回：社会科授業づくりの基礎②ー情報機器及び教材の活用法ー 第4回：社会科授業づくりの基礎③ー評価の方法ー 第5回：地理的分野の授業づくり①ー地理的な見方・考え方ー 第6回：地理的分野の授業づくり②ー授業づくりのポイントー 第7回：歴史的分野の授業づくり①ー歴史的な見方・考え方ー 第8回：歴史的分野の授業づくり②ー授業づくりのポイントー 第9回：地理と社会参画ー地理における問題解決型授業ー 第10回：歴史と社会参画ー歴史における問題解決型授業ー 第11回：学習指導案発表の準備②ー発表箇所の選定、学習指導案の考え方・書き方ー 第12回：学習指導案発表の準備③ー学習指導案作成を見据えた発表用ワークシートの作成ー 第13回：学習指導案発表会①ー地歴ー 第14回：学習指導案発表会②ー歴史ー 第15回：学習内容の相互交流会 定期試験				
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社				
参考書・参考資料等 適宜紹介				
学生に対する評価 定期試験70% 授業中の課題30%				

授業科目名： 社会・地歴科指導法Ⅲ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大山 正博 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育課程及び指導法に関する専門的事項 ・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1. 中学校社会科及び高校地歴科の授業を実施するための教科指導力・授業実践力を修得する。 2. 授業を行うにあたって必要な「教員としての振る舞い」を学ぶ。 （到達目標） ①模擬授業において授業を実施できる。②模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。③発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置づけを考察することができる。④授業での授業者としての立ち居振る舞いとコミュニケーション能力を身につける。				
授業の概要 本授業では、中学校社会科及び高校地歴科の教育理論と実践の歴史を理解するとともに、その成果を活かした授業ができるようになることをめざす。その際、説明型授業、意思決定・合意形成型授業、社会参画型授業について具体事例を通して学び、各自が将来行う授業のイメージをつかむ。また、学習指導要領解説を随時参照し、そこで示される目標、内容、資質・能力などについて理解する。 授業は講義形式とグループワークを併用し、学習したことを他者との意見交流を踏まえて定着させることをめざす。				
授業計画 第1回：オリエンテーションー社会科は何を育てるのか？－ 第2回：社会科の目標ー社会認識と市民的資質－ 第3回：社会科授業の型①ー説明型授業の理論－ 第4回：社会科授業の型②ー説明型授業の実践－ 第5回：社会科授業の型③ー意思決定・合意形成型授業の理論－ 第6回：社会科授業の型④ー意思決定・合意形成型授業の実践－ 第7回：社会科授業の型⑤ー社会参画型授業の理論－ 第8回：社会科授業の型⑥ー社会参画型授業の実践－ 第9回：「主体的・対話的で深い学び」を育む教材及び評価 第10回：模擬授業の準備①ー教育内容の選定、単元の構想－ 第11回：模擬授業の準備②ー教材の考案、細案の作成－ 第12回：模擬授業の準備③ー学習指導案の作成－ 第13回：模擬授業と事後検討会①ー地理－ 第14回：模擬授業と事後検討会②ー歴史－ 第15回：学習内容の相互交流会 定期試験				
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社				
参考書・参考資料等 適宜紹介				
学生に対する評価 定期試験70％ 授業中の課題30％				

授業科目名： 社会・地歴科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大山 正博 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程及び指導法に関する専門的事項 ・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1．これまでの歴史と現在の課題を学び、中学校社会科及び高校地歴科の教員としての資質を身につける。 2．中学校社会科及び高校地歴科における教育の実践的課題を 引き受け、授業を構想する教員としての実践力を探求する。 （到達目標） ①中学校社会科及び高校地歴科における教育の歴史を学び、自身の指導に取り入れることができる。 ②中学校社会科及び高校地歴科における教育の現代的課題を知り、対応する力を身につける。 ③中学校社会科及び高校地歴科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。 ④中学校社会科及び高校地歴科の特性に応じた情報機器の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。			
授業の概要 本授業では、中学校社会科及び高校地歴科と社会諸科学との関わりを理解する。最終的に、社会諸科学の知見に基づく授業研究ができるようになることをめざす。その際、哲学、政治学、社会学、経済学、歴史学、人類学等に基づく社会科授業の具体事例について学び、各自が将来行う授業研究のイメージをつかむ。また、学習指導要領解説を随時参照し、そこで示される目標、内容、資質・能力などについて理解する。 授業は講義形式とグループワークを併用し、学習したことを他者との意見交流を踏まえて定着させることをめざす。			
授業計画 第1回：オリエンテーションー社会科を探究するとは何か？ー 第2回：社会科と社会諸科学との関わり①ー地歴科と哲学との関わりー 第3回：社会科と社会諸科学との関わり②ー地歴科と政治学， 経済学との関わりー 第4回：社会科と社会諸科学との関わり③ー地歴科と社会学との関わりー 第5回：社会科研究の方法①ー題材の選定・先行研究の調査ー 第6回：社会科研究の方法②ーオリジナリティの設定・確認ー 第7回：社会科研究の方法③ー学習指導案および研究計画書の作成ー 第8回：社会科研究の方法④ー実践と分析ー 第9回：社会科研究の方法⑤ー論文の執筆ー 第10回：授業研究発表の準備①ー題材の選定、先行研究の調査ー 第11回：授業研究発表の準備②ーオリジナリティの設定・確認ー 第12回：授業研究発表の準備③ー学習指導案および研究計画書の作成ー 第13回：授業研究発表①ー地理ー 第14回：授業研究発表②ー歴史ー 第15回：学習内容の相互交流会 定期試験			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社			
参考書・参考資料等 適宜紹介			
学生に対する評価 定期試験70％ 授業中の課題30％			

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：大津尚志、高宮正貴 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1. 学校教育活動全体の中で、意図的・無意識的に道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度などの道徳性を形成していることを知る。 2. その過程で、自らを律しつつ、人間として円満に成長する「あゆみ」について探究し、今後の道徳教育のあり方と実践方法・教材等について探求する。 （到達目標） ①道徳と道徳教育に関する基本的な概念を理解する。②「生きる力」を育むことにより、中学生一人ひとりの豊かな心を育て、人生・社会を切り拓く実践的な力の育成を図る。③実際に中学校において道徳を指導する場面を想定し、指導案の作成や教材研究を試みながら「特別の教科 道徳」を担当できる知識と技術を身につける。			
授業の概要 道徳とは何かおよび道徳教育とは何かを明らかにし、その歴史的意義と現代的意義についてを扱う。道徳教育が現在の学校においてどのように規定されているのかを理解し、その要となる道徳の時間（特別の教科道徳）においてどのような指導が求められ、実践されているのかを探究しながら、受講生自身が指導方法を考える。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：道徳とは何か 1 西洋の倫理思想 第3回：道徳とは何か 2 東洋の倫理思想 第4回：道徳教育の諸理論 第5回：道徳性の発達と道徳教育 第6回：諸外国の道徳教育 第7回：道徳教育の歴史 1 戦前 第8回：道徳教育の歴史 2 戦後 第9回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラルなど） 第10回：学校の教育活動全体における道徳教育 第11回：道徳教育の実践方法 1 道徳科の目的、内容、評価 第12回：道徳教育の実践方法 2 道徳科の指導過程の作り方 第13回：道徳教育の実践方法 3 学習指導案の作成 第14回：模擬授業 第15回：まとめ、試験			
テキスト 高宮正貴『価値観を広げる道徳授業づくり：教材の価値分析で発問力を高める』北大路書房 中学校学習指導要領解説 特別の教科・道徳編（平成29年7月 文部科学省）			
参考書・参考資料等 授業中に指示する。			
学生に対する評価 ・学習指導案(40点) ・平常点等(60点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度（10点）、試験（50点）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：大津尚志、大山正博
日本国憲法	必修科目	2単位	担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
（テーマ）教職を目指す人の基礎的な素養として、日本国憲法の基本的な理念・体系・機能等について学ぶ。			
（目標）①日本国憲法についての関心を高め、基本的知識をもつ。②社会の諸事象や日々の生活の中で起こる諸問題を日本国憲法に照らして考えることができる。③学校教育と憲法との関わりについて、自ら考える能力を身につける。			
授業の概要			
日本国憲法について逐条的に解説していく。教職の授業であるから、特に教育問題とも密接に関連づけながら学ぶ。憲法との関連で重要な教育関連法令にも注目する。文章力の育成もめざす。			
授業計画			
第1回： はじめに なぜ憲法を学ぶのか 憲法の基本原理 憲法と法律（法段階）			
第2回： 教育をうける権利（1）教育の機会均等			
第3回： 教育をうける権利（2）義務教育			
第4回： 生存権			
第5回： 労働権			
第6回： 日本憲法史			
第7回： 人権の享有主体・法の下での平等			
第8回： 生命・自由・幸福追求権			
第9回： 信教の自由、表現の自由			
第10回： 刑事手続			
第11回： 統治機構（国会・内閣）			
第12回： 裁判所			
第13回： 地方自治			
第14回： 天皇、平和主義、立憲主義（最高法規）、憲法改正			
第15回： まとめ			
テキスト			
ポケット教育小六法（2023年版）（伊藤良高ほか編/晃洋書房）			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
・ レポート〔作品含む〕（20点）			
・ 平常点等（80点）出席課題の提出を求める			

授業科目名： スポーツと栄養	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：成田 厚子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）スポーツ選手における体力の維持、競技成績向上のために、トレーニングとともに適切な食事が重要である。そのために必要な基礎的栄養学知識を身につけ、競技スポーツ、健康の維持・増進のためのスポーツにおける食事に関しても理解を深める。知識の習得と共に、指導の場での応用方法や必要となるスキルを会得する。 （目標）五大栄養素のスポーツにおける役割を理解し、それぞれを応用して競技力向上のための活用方法及び具体例まで挙げられるようにし、スポーツをする人を対象とした指導媒体を作成できる程度の知識を習得する。			
授業の概要 ・ 栄養学の基礎から学び、運動時に利用される栄養素について理解を深める。 ・ 目的に合わせた食事計画について、スポーツ指導者として理解すべき科学的根拠から学習する。 ・ アスリートに多い栄養障害、ジュニア期の栄養教育などを踏まえた実践方法を習得する。			
授業計画 第1回： スポーツ栄養学の概要 第2回： トレーニングとエネルギー消費量 第3回： スポーツにおける炭水化物の役割 第4回： スポーツにおける脂質とタンパク質の役割 第5回： スポーツにおけるビタミンの役割 第6回： スポーツにおけるミネラルの役割 第7回： スポーツにおける水分補給 第8回： 筋肉増強のための食事 第9回： 骨づくりとカルシウム摂取 第10回： アスリートの減量のための食事 第11回： 貧血予防と鉄摂取 第12回： アスリートの疲労回復のための食事 第13回： 試合期の食事 第14回： 評価テスト 第15回： スポーツにおけるサプリメント			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 新版コンディショニングのスポーツ栄養学（樋口 満編著/市村出版）			
学生に対する評価 平常点等（100点）授業内テスト（途中数回の小テストを含む）70点、積極的参加度20点、レポート10点			

授業科目名：障がい者とパラスポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：保井 俊英
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）障がい者とパラスポーツを理解し、身近な障がい者へのスポーツ活動の支援に役立てることを目的とする。 （目標） 1 障がい者についての基本的な知識を身につけ、パラスポーツの捉え方、歴史、組織、競技・種目、ルール等を説明することができる。 2 障がい者のおかれている状況や背景を理解することにより、パラスポーツの重要性、障がい者への関わり方等について記述することができる。			
授業の概要 授業においては、まず障がいや障がい者を知ることが大切で、そのおかれている状況や背景を理解する。そして、その人たちがどのようにパラスポーツに取り組んでいるかを理解する。次に、パラスポーツに対して、どのように自分たちが関わることを考える。 毎回の授業において、パラスポーツについてのビデオ映像を視聴する。その競技種目の特性やルールだけでなく、障がい者の取り組み方などを理解する。また、ネット上にあるパラスポーツに関する情報を最大限に利用し、パラスポーツを通じて障がい者を元気にさせるための基礎的な理解を深める。 さらに、今回学ぶパラスポーツを通じて、障がい者との共生社会を考える。			
授業計画 第1回： 障がい者とパラスポーツとは 第2回： 障がいの種類、障がい者の生活 第3回： 障がい者福祉施策 第4回： 障がい各論（身体障がい①肢体不自由 ） 第5回： 障がい各論（身体障がい②視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい） 第6回： 障がい各論（知的障がい） 第7回： 障がい各論（精神障がい） 第8回： リハビリテーションとパラスポーツ 第9回： （公財）日本パラスポーツ協会 第10回： 障がい者スポーツセンター 第11回： パラスポーツの歴史 第12回： 国内のパラスポーツの競技会 第13回： 海外のパラスポーツの競技会 第14回： 誰もが親しめるスポーツ・レクリエーションの紹介 第15回： まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 「障害のある人のスポーツ指導教本（初級・中級） 2020年改訂カリキュラム対応」（公財）日本障がい者スポーツ協会[編]「障害のある人のスポーツ指導教本（初級・中級） 2020年改訂カリキュラム対応」 ぎょうせい）			
学生に対する評価 平常点等（100点）・小レポート60点（第1回～第14回迄の毎回授業時の課題を総合評価） ・大レポート40点（第15回授業時の課題評価）			

授業科目名：知っておきたい応急処置	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川端 京子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 学校や日常生活の中で起こりえる急病やけがに適切に対処できる方法について正しく知り、活用できることを目的とする。 (目標) 1. 基本的な応急手当での知識を習得できる。 2. 一次救命の正しい方法を知り、基本的な対処と処置ができる。			
授業の概要 一般の人ができる「救急法」とは、傷病者を医療機関や医師に引き継ぐまでの「応急手当」であり、傷病者の発見現場で直ちに行うことにより、傷病者の命を救うことや重症化を防ぐ大きな手助けとなる。そこで、学校や日常生活で起こりうる外傷や事故、病気を救う手当、痛みの軽減、悪化防止の応急手当等を科目の中で教授する。			
授業計画 第1回：【一次救命処置①】心肺蘇生法の基礎知識（成人・幼児・乳児に対する心肺蘇生法） 第2回：【一次救命処置②】AED（自動体外式除細動器）の基礎知識（成人・幼児・乳児に対するAED） 第3回：【学校での外傷と対応①】 頭部（頭・眼・耳・鼻）の外傷と対応 第4回：【学校での外傷と対応②】 運動器（四肢・脊椎・骨盤）の外傷と対応 第5回：【学校での外傷と対応③】 腹部の急性疾患と外傷時の対応 第6回：【学校での熱傷・化学損傷時の対応】 第7回：小児のけいれん、てんかんと初期対応 第8回：食物アレルギーとその対応 第9回：食中毒とその対応 第10回：家庭内における中毒等事故とその対応 第11回：アルコール中毒と女性 第12回：学校保健安全法における学校において予防すべき感染症 第13回：糖尿病と低血糖時の対応 第14回：心理的応急処置 第15回：まとめ			
テキスト 先生大変です。どうしたらいいですか！！－応急処置の実際－（玉川進/東山書房）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 平常点等（100点）内訳：授業中に実施する小テスト100点（10回×10点） （授業への積極的参加度含む）			

授業科目名： 生涯スポーツ論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：太田 雅夫 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）スポーツは現代社会において不可欠な文化と考えられる。この授業ではスポーツに関するさまざまな視点からの知識を学び、今後のライフステージにおける豊かな社会生活にそれらの情報を活かすことが目的である。 （目標）授業を通して、スポーツに関する多面的知識を正しく理解する。その知識を元に他者とディスカッションできる能力を身につける。また生涯にわたるスポーツの実践の基礎となる知識を身につける。			
授業の概要 スポーツの意味、その成り立ち、スポーツと社会の関連、生活とスポーツの関連等について講義する。			
授業計画 第1回： オリエンテーション 文化・社会・スポーツのとらえ方 第2回： 「スポーツ・体育」の歴史社会的理解Ⅰ（オリンピックズム） 第3回： 「スポーツ・体育」の歴史社会的理解Ⅱ（教育との関連） 第4回： 「スポーツ・体育」の歴史社会的理解Ⅲ（明治～昭和の体育・スポーツ） 第5回： 第二次世界大戦後、日本におけるスポーツ振興の経緯（制度、社会、経済との関連） 第6回： スポーツ的社会化・行為（文化・社会・パーソナリティー） 第7回： スポーツの価値 第8回： スポーツ集団の構造と機能 第9回： リーダーシップ論 第10回： 生涯スポーツという概念 第11回： 発育・発達 第12回： スポーツとライフステージ 第13回： スポーツ権（文化・差別・人権） 第14回： 余暇・労働（対面：授業内レポート・ノート提出） 第15回： まとめ、これからの生活を考える			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 教育の歴史と思想（貝塚他編著関編/ミネルヴァ書房（2020）） 近代体育スポーツ年表（岸野、稲垣編/大修館書店（1999）） 戦後日本のスポーツ政策（関編/大修館書店（1997）他）			
学生に対する評価 平常点等（100点）遠隔授業時⇒授業への積極的参加度（30点）、提出された課題評価（70点）			

授業科目名： スポーツ実技（テニス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉川 小百合 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）テニスは生涯スポーツであり何歳になっても楽しめるスポーツである。授業では基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームができるように学習する。できる喜びを感じる。 （目標）テニスの基本技術と応用技術とルールを学び試合ができることを目標とする。 テニスの楽しさを学ぶ。			
授業の概要 グランドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、サーブの技術の習得。各ショットに適したグリップの説明。シングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方。			
授業計画 第1回：授業の説明・授業のねらい・安全管理・評価方法について説明を行う 第2回：ラケットとボールに慣れる（ボールの弾み方、ラケットの長さを覚える） フォアハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ） 第3回：バックハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ） フォアハンドストロークの復習 ショートラリー 第4回：グランドストローク（ショートラリー・ベースラインラリー） 第5回：フォアハンドボレー、バックハンドボレー（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）ストロークの復習 第6回：サーブ（グリップとボールの回転の理解）ボレーボレー・ストロークの復習 第7回：スマッシュ（グリップとボールの回転の理解）グランドストローク・ボレー・サーブの復習 第8回：グランドストローク・ボレー・サーブ・スマッシュの復習 第9回：ルールの説明・ポイントの教え方・サービス&レシーブ 第10回：プロテニス選手の動画視聴（ルールの理解） 第11回：シングルのゲーム 第12回：ダブルスのゲーム（4ゲームマッチ） 第13回：ダブルスのゲーム（4ゲーム先取） 第14回：技術テスト（フォアハンドストローク・バックハンドストローク・ボレー） 第15回：技術テスト（スマッシュサーブ）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 テニス指導教本（日本テニス協会/大修館書店）			
学生に対する評価 平常点等（100点）授業への積極的参加度 70点 （授業への積極的参加度も重視し実技と合わせて総合的に評価する）技術テスト 25点 ルールをまとめる小レポート 5点			

授業科目名：スポーツ 実技（ゴルフ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：松村 公美子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） ゴルフスイングの練習を通して身体を動かす楽しみや充実感を味わうことが主な目的。またゴルフに関する様々な知識を増やすことを目的とする。 （目標） ゴルフスイングを正しく習得すること。ゴルフの競技特性を理解すること。 生涯スポーツであるゴルフを自立的に楽しめるようになることを目標とする。			
授業の概要 担当講師考案の『ゴルフスイング体操』によって、ゴルフスイングにおける安全で効率的な身体の動かし方を学ぶ。（『ゴルフスイング体操』は、JLPGAアワード2020においてティチャー・オブ・ザ・イヤー清元登子賞を受賞）自身の身体を正しく動かすために必要となる機能解剖の基礎を学ぶ。ゴルフスイングの練習の仕方を覚えてボールを打つ技術を向上させる。 ゴルフゲームをおこなってスコアのつけ方やゴルフ用語を学ぶ。プレー中のエチケットやマナーなどを知り、ゴルフを自立的に楽しめるようになるための基礎を構築する。			
授業計画 第1回： 普通教室にて行う（MM-501）オリエンテーション（講義のためゴルフのできる服装でなくて良い） ゴルフの歴史と正しいグリップの握り方を学ぶ 第2回： 体育館にて行う（GⅡ-23） ゴルフスイングを正しく習得するための『ゴルフスイング体操』を行う ・ 第3回～第10回目は、総合スタジアム特設ゴルフ練習場を使用（雨天時やグラウンドコンディションの悪い日は体育館（GⅡ-23）を使用。オンライン授業に切り替えることも有ります） 第3回： ゴルフスイングの基本【1】 ゴルフスイングの練習・ゴルフスイングの8つの名称について 第4回： ゴルフスイングの基本【2】 セットアップの手順を学ぶ 第5回： ゴルフスイングの基本【3】 スイング動作の動画チェック 第6回： 実技テスト【1】 グリップとセットアップの手順 第7回： ゴルフゲームの練習 第8回： ゴルフゲーム実施。スコアの呼び名を覚える 第9回： パターの使い方を学ぶ 第10回： ゴルフスイングの3つの振り幅の練習 第11回： 普通教室にて行う（MM-501） ゴルフに関する基礎知識の復習と筆記テスト ゴルフの練習をした感想を書いて提出（レポート提出） ・ 第12回～第15回目は、民間のゴルフ練習場を使用（予定）。 但し有料（受講人数にもよりますが、1回約300円～500円程度で自己負担となります）。 第12回： 色々な長さのクラブで打つ練習 第13回： 実技テスト【2】 アプローチ 第14回： 実技テスト【3】 セットアップの手順・ゴルフスイングの8つの名称 第15回： 実技テスト【4】 フルスイング ・ 祝日や授業実施曜日等の関係で、民間のゴルフ練習場を使用する授業の回を変更する場合があります			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 ゴルフスイング体操（松村 公美子/ ベースボールマガジン社）			
学生に対する評価 平常点等（100点）実技テスト：40点、筆記テスト：30点、レポート：10点、授業への積極的参加度・課題提出：20点			

授業科目名：スポーツ実技（バレーボール）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：足立 学
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）バレーボールの楽しさは、一つのボールをつなぎやラリーを行うことにある。本授業では、基本技術の習得やルールおよび審判方法など種目の特性を知ることができる。また、仲間と楽しみながらゲーム体験をし、生涯において健康的な生活を送るための健康づくりや生涯スポーツへきっかけとなる運動体験ができる。 （目標）バレーボールは集団スポーツであることから、集団的機能による共同性を養うことができる。また、本競技の本質的楽しさを知るために、個人到達目標として基本動作となるオーバーハンドパス・アンダーハンドパスおよびサーブ・レセプション（サーブレシーブ）・ディグ（スパイクレシーブ）・スパイクなどの個人技能の習得や他者を介してのボールコントロールを身につけることができる。			
授業の概要 本授業では、授業前半において主に基礎的なボールコントロール（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・ボール遊び）や、サーブ・スパイクなどの個人的技能の習得を目的とし展開する。授業後半では、ゲームを中心とした集団機能およびルール・審判方法などを学習し、実践的にバレーボールに親しめるよう授業を展開する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション （1）授業の基本的な進め方の説明（2）施設・用具・コート設営方法などの説明 （3）活動班（チーム）決め 第2回：基本技術ボールコントロール （1）準備体操・ボール遊び（ボールコントロール）（2）基本の構え方と動き方（3）オーバーハンドパス（直上）（4）アンダーハンドパス（直上）（5）サーブ 第3回：基本技術各種パスとサーブ （1）オーバーハンドパス（直上）（2）アンダーハンドパス（直上）（3）サーブ 第4回：対人技能パス・レセプション・ディグ （1）オーバーハンドパス（対人）（2）アンダーハンドパス（対人）（3）サーブ・レセプション（対人）（4）ディグ・トス・スパイク（連携） 第5回：ボールコントロールテスト （1）オーバーハンドパス（対人）（2）アンダーハンドパス（対人）（3）サーブ・レセプション（対人）（4）ディグ・トス・スパイク（連携）（5）実技テスト（アンダーハンド・オーバーハンドパス） 第6回：ラリー練習 （1）オーバーハンドパス（隊列）（2）アンダーハンドパス（隊列）（3）サーブ（4）ディグ（3人）（5）レセプション（3人） 第7回：集団連携練習 （1）オーバーハンドパス（隊列）（2）アンダーハンドパス（隊列）（3）サーブ（4）ディグ（6人）（5）レセプション（6人）（6）スパイク（7）実技テスト（サーブ・スパイク） 第8回：フォーメーション練習 （1）オーバーハンドパス（隊列）（2）アンダーハンドパス（隊列）（3）サーブ（4）ディグ（ブロックやフォーメーション含む）（5）レセプション（フォーメーション含む）（6）スパイク 第9回：ゲームの進め方とルールおよび審判方法の習得 （1）ルールの説明（6人制）（2）審判の方法および各審判員の役割説明（3）ローテーションと攻守時のフォーメーション説明（4）模擬ゲーム 第10回：ゲームと審判実践 （1）ルールの説明（6人制と9人制の違い）（2）審判方法の復習（3）ローテーションと攻守時のフォーメーション説明（6人制と9人制の違い）（4）模擬ゲーム 第11回：多人数ゲームの実践 （1）多人数制ワンバウンドゲーム（2）9人制ゲーム ※試合方式は、全チーム平等にリーグ戦を行う。 第12回：セッター固定ラリーゲーム （1）7人制ゲーム（セッター固定型、バックアタックのみ） ※試合方式は、全チーム平等にリーグ戦を行う。 第13回：戦術応用によるラリーゲーム （1）7人制ゲーム（セッター固定型、前衛攻撃・ブロックあり） ※試合方式は、全チーム平等にリーグ戦を行う。 第14回：6人制ゲーム （1）6人制ゲーム（ポジションを決めた実践ゲーム） ※試合方式は、全チーム平等にリーグ戦を行う。 第15回：まとめ（6人制トーナメントゲーム）			
テキスト特になし			
参考書・参考資料等 みんなが主役になれるバレーボールの授業づくり（福原祐三他/大修館書店） バレーボールの練習プログラム（福原祐三他/大修館書店） バレーペディア（日本バレーボール学会/日本文化出版）			
学生に対する評価 平常点等（100点）授業への積極的参加度（50点）、実技テスト（30点）、技術点（20点）			

授業科目名：スポーツ実技（フットサル）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：宇野 博武 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）この授業では、フットサルのルールや特性を学び、個人技術を向上させチームスポーツとしてゲームを楽しめるようになることとともに、フットサルを媒体として他者とコミュニケーションを図り、自分の身体や体力に目を向けることを目的とする。 （目標）この授業の到達目標は、フットサルの基礎的なテクニック・戦術およびゲーム（試合）のルールを理解し、フットサルの楽しさを味わうために必要な知識・技能・態度を身につけることである。			
授業の概要 フットサルは比較的小さなスペースで実施でき、年齢・性別に関係なく愛好者の多いスポーツである。この授業では、生涯にわたって楽しむスポーツの一つとして、フットサルを十分に楽しむために必要となる知識・技能・態度の養成を目指す。具体的には、授業毎にテーマ（基本技能あるいは戦略）に応じたトレーニングを行い他者と協働しながら技能習得を図る。基本的には初学者を対象として授業を設計している。このため、「ボールを止めて蹴る」という基本的な動作から、ゆとりをもって徐々に学習を深めていく。			
授業計画 第1回： オリエンテーション：授業の進め方、施設利用方法、注意事項などの説明 第2回： 基本技能：トラップ、ドリブル 第3回： 基本戦術：ファー詰め 第4回： 基本技能：パス 第5回： 基本戦術：ピヴォ当て 第6回： 基本技能：フェイント 第7回： 基本戦術：2対1 第8回： 中間総括（振り返り、技術・戦術・ルールに関する知識定着を測定する中間試験） 第9回： 基本技能：シュート、ゴレイロ 第10回： 基本戦術：3対1 第11回： 基本技能：ロンド 第12回： 基本戦術：ボールポゼッション 第13回： ゲーム：リーグ戦 第14回： ゲーム：トーナメント 第15回： 総括（振り返り、技能試験）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 ミゲル・ロドリゴ（2012）世界一わかりやすい!フットサルの授業、カンゼン ISBN：9784862551368			
学生に対する評価 平常点等（100点）技術・戦術・ルールに関する知識定着を測定する中間試験（40点）、技能試験（60点）			

授業科目名：スポーツ実技（バドミントン）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：高橋 美佳
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）生涯スポーツとして、年齢男女問わず、レクリエーショナルにも競技的にも楽しむことのできるバドミントン。 そのバドミントンの特性を、するスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツといった様々な角度から理解、実践し、楽しさを多角的に学ぶことを目的とする。 （目標）バドミントンの基本的なストローク技術やシングルス・ダブルスのルールの理解、習得をする。それらをベースとして試合を楽しみ、プレーすること、他者のプレーを観る・応援すること、試合運営を支えあうこと等から、多角的な楽しさ、バドミントンへの携わりを学ぶ。			
授業の概要 前半は、バドミントンの歴史の追体験、ヒッティングの基本的な技術の習得、後半は試合に関するルールの理解、試合をする・観る・支えるということを多角的な学び、レベル別ダブルスの試合を通して仲間との協力から課題発見・解決・向上を目指していく。			
授業計画 第1回： オリエンテーション：バドミントン今昔①（歴史に挑戦）、授業の進め方について 第2回： グリップや各種ストローク（オーバーヘッド、アンダーハンド、サイドアーム）について。 バドミントン今昔②(昔のゲームに挑戦) ～コート設営・撤収の仕方の理解・実践含む～ 第3回： サーブについて＋半面ゲーム 第4回： 様々なショットを学ぶ①（ドライブ、クリアー）＋半面ゲーム 第5回： 様々なショットを学ぶ②（ドロップ、ロブ、ヘアピン）＋半面ゲーム 第6回： 様々なショットを学ぶ③（スマッシュ、プッシュ）＋半面ゲーム 第7回： 半面Up&Downゲームを楽しもう！ 第8回： シングルスゲームのルール・審判理解&実践 第9回： ダブルスゲームのルール・審判理解 第10回： ダブルスゲームのルール・審判理解&実践＋フォーメーションについて 第11回： 団体戦に向けてのチーム分け、チーム練習 第12回： 団体戦・総当たり戦①（第1，2試合）プレー・応援・審判＋個人ラケットワークテスト 第13回： 団体戦・総当たり戦②（第3，4試合）プレー・応援・審判＋個人ラケットワークテスト 第14回： 団体戦・総当たり戦③（第5試合）プレー・応援・審判＋個人ラケットワークテスト、団体戦総括、次時へ向けてUp&Downゲーム 第15回： レベル別ダブルスを楽しもう！ まとめ（授業の振り返り） ※感染症拡大状況や履修者の状況によって、授業計画の進め方に変更が生じる場合もある			
テキスト 特なし			
参考書・参考資料等 わたしのバドミントン・ブック（阿部一佳・阿部智子/てらぺいあ BADMINTON競技規則（財団法人 日本バドミントン協会/財団法人 日本バドミントン協会）			
学生に対する評価 平常点等（100点）毎時ミニ課題（3点×15回＝45点）、技術成長度・ラケットワークテスト（20点）、ルール知識理解度（20点）、積極的参加度（15点）			

授業科目名：スポーツ実技（エアロビクス）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：坂田 純子
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）音楽に合わせて、リズムカルに楽しく身体を動かし、健康・体力づくりができるのがエアロビックダンスである。本授業では、健康・健康体力づくりに役立つ知識を学び、エアロビックダンスで身体を動かし、生涯に渡って楽しくフィットネスライフを継続できるようになることが目的である。 （目標）毎回の授業において、日常生活や自宅や学校等で、エアロビクスを取り入れ、いつでもどこでもできるトレーニングやストレッチを実践できるようになることが目標である。				
授業の概要 本授業では、日常生活に取り入れられる運動や知識を紹介し、健康・体力づくりに役立つレクチャーを並行して行う。軽快な音楽に合わせて気持ち良く汗を流しましょう！				
授業計画 第1回：講義（1）ガイダンス／水分補給の重要性／学習前の準備体操 実技（2）リズムミック・ウォーキング（楽しく汗を流そう） 第2回：講義（1）エアロビックダンスの特徴・メリット 実技（2）リズムミック・ウォーキング（様々な筋肉や関節を動かそう） 第3回：講義（1）正しい姿勢と歩き方 実技（2）はじめてエアロ／コンビネーション（動きの組み合わせで楽しく動こう） 第4回：講義（1）姿勢の観察 実技（2）シンプルエアロ／コンビネーション（動きの組み合わせを増やして楽しく動こう） 第5回：講義（1）ウォーミングアップの重要性 実技（2）効果的なウォーミングアップの実践とコンビネーション（動きの組み合わせを増やして楽しく動こう） 第6回：講義（1）ストレッチエクササイズの重要性 実技（2）ストレッチエクササイズの実践 第7回：講義（1）筋肉トレーニングの重要性 実技（2）筋肉トレーニングの実践 第8回：講義（1）動く筋肉トレーニングと止めて行う筋肉トレーニング 実技（2）ファットバーナープログラム（とばない動きと、とぶ動きの組み合わせ） 第9回：講義（1）トレーニング理論 実技（2）ファットバーナープログラム（とばない動きと、とぶ動きの組み合わせ） 第10回：講義（1）クラス構成／運動処方 効果が出る運動の種類・頻度・強度・時間とは 実技（2）クラス構成を意識して楽しく身体を動かそう 第11回：講義（1）骨と運動／ハイインパクトとローインパクト 実技（2）ハイインパクト 第12回：講義（1）まとめ／これまで学んだことを振り返ろう 実技（2）ローインパクトからハイインパクトの流れで楽しく動こう 第13回：講義（1）足裏・足指体操 実技（2）足裏・足指体操の実践／エアロビックダンスエクササイズ 第14回：講義（1）これまで学んだことを日常生活にどう活用していくか工夫/小レポートのポイント 実技（2）自分に合った強度調節でエアロビックダンスを動いてみよう 第15回：講義（1）小レポート作成とプレゼンテーション 実技（2）これまで学んだことを意識してローインパクトからハイインパクトの流れで楽しく動こう				
テキスト 特になし				
参考書・参考資料等 健康科学 ヘルスプロモーション概論(和田雅史/公益社団法人日本フィットネス協会)				
学生に対する評価 平常点等（100点）授業への積極的参加（60点）、課題・小レポート・プレゼンテーション（40点）				

授業科目名：スポーツ実技（スリムエアロ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：三浦 栄紀 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、体力向上、シェイプアップを中心に楽しくエアロビックダンスを行い、学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。 （目標）エアロビックダンスの基本実技から様々なステップバリエーションを学習することで、音楽と一体感のある振付を楽しむことができ、エアロビックの技術向上を目標とする。			
授業の概要 本授業では、エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション/授業の目的、進め方、評価方法の説明と基本的なエアロビックエクササイズを受講 第2回：歴史や特徴について/ローインパクトの基本実技 第3回：効果/ローインパクトバリエーション実技 第4回：ステップの強度と難易度について/ハイインパクト基本実技とバリエーション 第5回：正しい姿勢/ローハイインパクト実技 第6回：脂肪燃焼について/ローハイインパクト実技 第7回：まとめと中間テスト（基本動作の実技テスト） 第8回：筋力トレーニング（上半身）/サーキットエアロ実技 第9回：筋力トレーニング（下半身）/サーキットエアロ実技 第10回：エアロビクスの展開方法について/ローハイインパクト実技 第11回：運動強度と難易度をアップさせたエアロビクスを受講/受講後に各チームでディスカッション 第12回：運動強度と難易度を加えた中級者向けエアロビクスの実技/課題に向けてチーム毎で実技練習とディスカッション 第13回：動きの注意点を確認後、チームに分かれて、課題の実技練習とディスカッション 第14回：実技テスト 第15回：まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 エアロビックダンスエクササイズ指導理論（公益社団法人日本フィットネス協会より）			
学生に対する評価 平常点等（100点）授業中に実施する中間実技テスト20点（基本動作）、最終実技テスト30点（課題の動き）ミニレポート（30点） 授業への積極的参加20点			

授業科目名：スポーツ実技（軽スポーツ）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：岩下 由利子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）トランポリン運動は、三次元スポーツ！空中で自分の体を動かし新たな身体能力を発見しよう。個人スポーツなので各自のレベルに合わせて楽しく運動することができる。又全身運動により美しいプロポーション作りに役立つ。脳の活性化・持久力・瞬発力・バランス感覚を養うことができる。 （目標）1. バランス感覚を身につける。コア・トレーニングができる（普段運動不足の学生）インナー・マッスルがさらに強化される（運動クラブの学生） 2. 脳の活性化・体力の向上を図る。 学業のプラスに繋がる（トランポリンを使用の動作全て） 3. 生涯スポーツとして役立つ。一度身につけた感覚は忘れない為。 ※トランポリン運動は不安定な場所で行う為、頭と身体を一度に使う為、認知症の予防や障害者の回復運動にも利用できます。			
授業の概要 1. 基本動作を身につける。（器具の特性を知る）2. 種目を覚える。（分習を連続につなげていく）3. バッジテストに挑戦する。（5級・4級）4. 競技トランポリンを知る。（シンクロ演技）			
授業計画 第1回：（1）器具の特性を知る（器具に触れ歩く・走る）（2）基本種目（ひざ落ち・腰落ち・腹落ち・背落ち）（3）ストレートジャンプ～チェックバウンス 三本ジャンプ 1/2ひねり・1回ひねり ※高さを取らず感覚を身につける事を重視してください。 第2回：（1）器具の特性を知る（器具に触れ歩く・走る）（2）基本種目（ひざ落ち・腰落ち・腹落ち・背落ち）（3）ストレートジャンプ～チェックバウンス 三本ジャンプ 1/2ひねり・1回ひねり ※高さを取らず移動を少なくすることに意識してください。 第3回：（1）器具の特性を知る（器具に触れ歩く・走る）（2）基本種目（ひざ落ち・腰落ち・腹落ち・背落ち）（3）ストレートジャンプ～チェックバウンス 三本ジャンプ 1/2ひねり・1回ひねり ※体重をしっかり乗せ身体を動かしてください。 第4回：（1）器具の特性を知る（器具に触れ歩く・走る）（2）基本種目（ひざ落ち・腰落ち・腹落ち・背落ち）（3）ストレートジャンプ～チェックバウンス 三本ジャンプ 1/2ひねり・1回ひねり ※少し高さを取って行ってみてください。 第5回：（1）種目の連続（バッジテスト種目を使用）（2）高難度種目（スイブルヒップス・フルシート）※バッジテスト2級・3級種目（2）の習得に努める。 第6回：（1）種目の連続（バッジテスト種目を使用）（2）高難度種目（スイブルヒップス・フルシート）※バッジテスト2級・3級種目（2）の性能を高める。 第7回：（1）種目の連続（バッジテスト種目を使用）（2）高難度種目（スイブルヒップス・フルシート）（3）シャトルゲーム ※高難度種目、反復練習とシャトルゲームの紹介（ルールを取得する） 第8回：（1）種目の連続（バッジテスト種目を使用）（2）高難度種目（スイブルヒップス・フルシート）（3）シャトルゲーム ※グループごとにシャトルゲームに挑戦（連続回数を増やす事を重視する） 第9回：（1）実技テストを兼ねた練習 a. 単発技 b. バッジテスト種目 c. シンクロ演技 ※バッジテスト5級前半の種目、単発練習と連続6種目を覚える（記憶） 第10回：（1）実技テストを兼ねた練習 a. 単発技 b. バッジテスト種目 c. シンクロ演技 ※バッジテスト5級前半6種目の連続をスムーズに行う（器具の弾性を活かす） 第11回：（1）実技テストを兼ねた練習 a. 単発技 b. バッジテスト種目 c. シンクロ演技 ※バッジテスト5級後半の種目、単発練習と連続4種目を覚える。並行して4級の単発練習も行う。 第12回：（1）実技テストを兼ねた練習 a. 単発技 b. バッジテスト種目 c. シンクロ演技 ※バッジテスト5級を完成させる（5級全習）並行して4級の全習も行う。 第13回：実技テスト（5級・シンクロ）① 第14回：実技テスト（5級・シンクロ）② ※実技テストは5級・シンクロから合計4回の受講の中、高得点を採用する。 第15回：シャトルゲーム			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 エアリアル・トレーニング（塩野尚文/ 同和書院）			
学生に対する評価 平常点等（100点）平常点等配点内訳：授業中実施する種目で完成度20点（基本動作を確認）、記憶力・コミュニケーション力20点（シャトルゲームにて確認）、授業への積極的参加度20点、最終実技テスト40点（課題の完成度）			

授業科目名：スポーツ実技（パラスポーツ）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：保井 俊英
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
（テーマ） パラスポーツを体験することを通じて、パラスポーツの理解、および障がいのある方や多様な人々へのスポーツ活動の支援に役立てることを目的とする。			
（目標） 1 学生は、パラリンピック種目や全国で取り組むスポーツ種目を疑似体験することによって：			
（1） 種目の基本操作を発表できる。			
（2） 種目のルールの概要を述べることができる。			
（3） 使用する機器用具の特徴や規定を述べることができる。			
2 学生は、体験から学んだことをもとに、パラスポーツの重要性や障がいのある方との関わり方などについて、発表することができる。			
授業の概要			
パラリンピックで採用されている種目や全国で取り組んでいるスポーツ種目を『疑似体験』することを、本科目の中心とする。この体験を通じて、特殊な機器用具を使用した基礎的な知識や技能を修得し、種目ごとのルールで疑似体験をする。その体験から、種目の楽しさや魅力を探究する。			
さらに、パラスポーツの重要性や障がいのある方との関わり方などについて、到達目標に向けた考察を深めるような働きかけをする。			
授業計画			
第1回 パラリンピックの紹介			
第2回 車いすの基本操作1（取扱方法、各種回転、制動など）			
第3回 車いすの基本操作2（1の復習、ドリブル、球拾いなど）			
第4回 車いすバスケットボール1（基本操作の復習、ルール、パスなど）			
第5回 車いすバスケットボール2（前回の復習、チェアワーク、ゲームなど）			
第6回 車いす トラック1（ルール、コース設定、タイムアタックなど）			
第7回 車いす トラック2（前回の復習、リレーなど）			
第8回 シッティングバレーボール			
第9回 フライングディスク			
第10回 視覚障がい トラック（伴歩・伴走など）			
第11回 ゴールボール			
第12回 ボッチャ			
第13回 口頭発表1（パラスポーツの重油性や障がいのある方との関わり方）			
第14回 口頭発表2（口頭発表1で発表していない人を対象）			
第15回 総括			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
松尾哲矢，平田竹男編、パラスポーツ・ボランティア入門：共生社会を実現するために、旬報社、2019、9784845116126、¥1,540			
学生に対する評価			
平常点等（100点）			
・ 実技課題やClassroom課題（80点：10点*8回）			
・ 口頭発表（20点）			

授業科目名： スポーツ実技（ヨガ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：雄谷 昌子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）近年、AI機能やスマートフォンの進化により、とても便利な社会である反面、運動不足や不規則なライフスタイルから心身の不調を起こしている人が増えている。運動が体、心、脳に良い効果があることは、多くの研究報告から明らかになっているが、その中でもヨガは、時代の流れと共に変遷され、医学や心理学、企業での人材育成や能力開発など、様々な分野に活かされている。そのヨガの知恵を現代社会に取り入れやすいかたちで、実技を中心に体験学習する。学生生活また卒業後も心身のバランスを保つセルフコンディションワークとして身に付けることを目的とする （目標）*15回の授業で、柔軟性、筋持久力、心肺機能など基礎体力が徐々に向上するが、実技体験から感じたこと、気づきを、まとめ発表する。*授業で学んだことを、自己のコンディションワークとして取り組みやすいようにまとめ実践する。*授業では、多種多様なヨガアプローチを体験する。古来からのヨガの智慧を社会システムの変化が著しい現代社会の流れに合うように、斬新なヨガを体験することでクリエイティブな発想へと繋がる。			
授業の概要 *授業では、様々な分野に活用されているヨガの知恵をセルフコンディションワークとして取り入れやすいかたちで学ぶ。*実技は、体の構造的なことを踏まえ段階的に、全身バランス良く効果的に動かす為、気持ち良くマイペースで取り組み爽快感と達成感が得られる。*フレキシブルな実技進行から楽しく学びながらクリエイティブな発想に繋がる。*実技理論においては、ヨガ概論以外にも体の構造的なことやアーユルヴェーダ、東洋医学などの伝統医学から心身のコンディションアップに繋がる要点を学ぶ。			
授業計画 第1回：*ヨガとは(歴史、哲学) *運動による効果とヨガ *基本動作、ニュートラルな姿勢 第2回：*ヨガの効果(体、脳、メンタル) *ヨガの効果(様々な分野でのヨガの活用) *基本動作と応用(音楽を使いリズムカルなヨガ) 第3回：*グローバル社会におけるヨガ活用(希少性、情報編集力) *基本動作と変換(リズムカルなヨガ、整体ヨガ) 第4回：*ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲骨)*体幹と四肢の繋がり(キネティックチェーン)*基本動作と変換(骨盤調整) 第5回：*体幹の筋解剖学 *呼吸の意識と効果(呼吸の筋解剖学、呼吸法)*呼吸と動作の繋がり *自律神経と呼吸 *基本動作と変換(背骨調整) 第6回：*右脳と左脳と体の繋がり *脳番地からみたヨガ運動による脳への効果 *基本動作と変換(股関節調整) 第7回：*足裏反射区 *音楽との調和を楽しむヨガ 第8回：*手の反射区 *音楽との調和を楽しむヨガ 第9回：*アーユルヴェーダによる3つの体質と特徴 *音楽との調和を楽しむヨガ 第10回：*東洋医学陰陽五行説による体の繋がりと特質、臓器時計 *基本動作、セルフマッサージ(筋膜リリース、リンパドレナージュ) 第11回：*五感とマインドフルネス *伝統医学からの健康法抜粋 *基本動作と音楽活用 *腰痛、肩こり緩和のヨガ 第12回：*養生カラーセラピーの効用と体の反応 *レクリエーションとしてのヨガ 第13回：*伝統医学からの抜粋(ツボの効用と整体)*基本動作と症状別対処方法例 第14回：*ヨガの生理学効果、ヨガの解剖学的効果のまとめ *音楽との調和を楽しむヨガ 第15回：まとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 雄谷昌子オリジナル動画(ヨガ概論、アーユルヴェーダ、東洋医学、整体などヘルスケアビューティー実技理論と実技サンプル)を週1回classroomより配信			
学生に対する評価 平常点等（100点）授業への積極的な取り組み60点、授業内で行う実技ドリル10点、小レポート（気づき、感想）30点、			

授業科目名： スポーツ実技（ジャズダンス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：豊永 洵子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）アメリカのブラックカルチャーから派生したジャズダンスは、全世界のエンターテインメント界でもっとも親しまれているジャンルである。本授業では、ジャズダンスの歴史、特徴、スタイルを体験的に学ぶ。 （目標）1. ジャズダンスの歴史や特徴について理解する。2. ジャズダンスを踊るうえで必要な技術を身につける。3. グループ創作活動を通して、ダンスを通して他者との円滑なコミュニケーションを図る能力を身につける。4. 授業内で設定する自己課題の解決に向けて、主体的に取り組む。5. ダンスを踊る面白さや、その開放感等感じたことを言語化し、更に実生活において活用できる			
授業の概要 授業前半では、ダンスを踊る基本的な身体トレーニングを行う。また、これについては授業内において継続的に実施することで、自身の身体の調子を整える技術として活用する。授業中盤～後半にはジャズダンスの基本的なステップを段階的に学習を進めながら、課題曲についての振付を覚え、踊れるようにする。 授業終盤は、グループに分かれ部分的な振付の創作、フォーメーションの設定などを行いダンス発表を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション （1）科目目的と授業内容の説明 （2）授業受講者アンケートの実施 （3）ジャズダンスとは 第2回：ダンス・トレーニングの実践① 姿勢分析と体幹トレーニング基礎 第3回：ダンス・トレーニングの実践② 柔軟トレーニングと体幹トレーニング（初級） ダンス・トレーニングの実践③ 柔軟トレーニングと体幹トレーニング及びリズムトレーニング導入 第4回：ダンス・トレーニングの実践④ リズムトレーニング～フロアレッスン 第5回：ジャズダンス基礎① アイソレーション 第6回：ジャズダンス基礎② ステップ&ターン 第7回：ジャズダンス基礎③ ジャンプ&ステップ2 第8回：課題振付① Aメロの振付・練習 第9回：課題振付② サビ部分の振付・練習 第10回：課題振付③ 全体の振付練習・確認 第11回：課題振付④ 全体の練習・グループ分け 第12回：グループワーク① 部分振付の考案 第13回：グループワーク② フォーメーションの確定 第14回：グループワーク③ 練習・発表準備 第15回：課題発表・まとめ ○第15回目：全授業のまとめ、及び最終発表を実施し、その感想を共有しあう ※【1】、【2】【3】それぞれ最終授業時に、発表（振付テスト）を実施する。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 Lindsay Guarino, Wendy OliverJazz（2015）Dance: A History of the Roots and Branches ISBN：978-0813061290 Lindsay Guarino, Carlos R. A. Jones, Wendy Oliver（2022）Rooted Jazz Dance: Africanist Aesthetics and Equity in the Twenty-First Century ISBN：978-0813069111			
学生に対する評価 平常点等（100点）毎授業への参加態度（45点）、授業後の課題実施（30点）、グループ活動への貢献（5点）、発表（10点）、小レポート（10点）			

授業科目名：英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 麻衣子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）英語で話すことに慣れていない学生が、英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけ、身近な話題について会話する基礎的な力を培うことを目的とする。 本授業は外国人講師が担当し、授業はすべて英語で行う。 （目標）挨拶、自己紹介などを英語で行うことができる 身近な話題であれば、会話の内容を大枠で聞き取ることができる 基礎的なやさしい表現を用い、身近な話題について英語で話すことができる			
授業の概要 授業では、講師やクラスメートとのペアワークやアクティビティ等を通じて、基本的な会話を練習する。また、会話を円滑に進めるコツを学び、できるだけスムーズに話す練習をする。			
授業計画 第1回： オリエンテーション（授業の注意事項の確認、評価方法等）、Classroom Englishの練習 第2回： Classroom Englishの復習・口頭試験紹介・練習 第3回： Unit 1 Class Album（クラスアルバム）／質問をする 第4回： Unit 1 Class Album（クラスアルバム）／丁寧に質問をする 第5回： Unit 9 Music Profile（音楽紹介）／興味や好みを尋ねる 第6回： Unit 9 Music Profile（音楽紹介）／会話内容を伝える 第7回： Unit 6 Bargain Shopper（バーゲンの買い物客）／アイテムの説明をする 第8回： Unit 6 Bargain Shopper（バーゲンの買い物客）／申し出を断る 第9回： Unit 10 Style Makeover（イメージチェンジ）／洋服の説明をする 第10回： Unit 10 Style Makeover（イメージチェンジ）／丁寧にアドバイスをする 第11回： Unit 1、9、6、10の復習および口頭試験① 第12回： Unit 2 Favorite Photos（好きな写真）／写真や場面を描写する 第13回： Unit 2 Favorite Photos（好きな写真）／続けて質問をする 第14回： Unit 4 Believe It or Not（信じようと思えば）／物語を伝える 第15回： Unit 4 Believe It or Not（信じようと思えば）／興味を示す 第16回： Unit 5 Where I Grew Up（育った場所）／過去のルーティンを説明する 第17回： Unit 5 Where I Grew Up（育った場所）／詳細に伝える 第18回： Unit 3 Personal Goals（目標）／将来の目標を述べる 第19回： Unit 3 Personal Goals（目標）／アドバイスを求める 第20回： Unit 2、4、5、3の復習および口頭試験② 第21回： Unit 11 Honesty（誠実さ）／仮定的な質問をする 第22回： Unit 11 Honesty（誠実さ）／不明な点を確認する 第23回： Unit 12 School Reform（学校改革）／問題点を説明する 第24回： Unit 12 School Reform（学校改革）／他の人に話を促す 第25回： Unit 7 The Perfect Gift（パーフェクトな贈り物）／アイデアを説明する 第26回： Unit 7 The Perfect Gift（パーフェクトな贈り物）／受け渡しをする 第27回： Unit 8 Party Planner（パーティーの立案者）／情報を尋ねる 第28回： Unit 8 Party Planner（パーティーの立案者）／提案に対して返答する 第29回： Unit 11、12、7、8の復習および口頭試験③ 第30回： 総復習			
テキスト Active Skills for Communication 1 (Chuck Sandy (Author), Curtis Kelly (Author)/ Heinle Cengage Learning)			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 平常点等（100点）デイリーチェック（50点）、口頭試験×3回（30点）、積極的参加度（20点）			

授業科目名：英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：木村 麻衣子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）英会話学習に関心があり、基礎的な英語力がある学生が、日常の身近な話題や、物事について、よりスムーズに会話の「キャッチボール」を楽しむ力を身につけることを目的とする。また、会話に必要な文法事項の復習や、語彙力の強化も同時に行う。本授業は外国人講師が担当し、授業はすべて英語で行う。 （目標）休日の過ごし方、買い物、旅行など、日常想定できる場面で、自分の意見を的確に伝えることができる 馴染みのない話題でも、質問を繰り返すなどして、大卒で理解できる 複文を用いることができる			
授業の概要 授業では、できるだけ長く会話を続けたり、主体的に話したりすることを意識して、講師やクラスメートと英語でのやりとりを練習する。また、基本的なプレゼンテーションの方法やコツを学び、練習をする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の注意事項の確認、評価方法等）、Classroom Englishの練習 第2回：Classroom Englishの復習・口頭試験紹介・練習 第3回：Unit 1 Class Facebook（クラスフェイスブック）／質問をする 第4回：Unit 1 Class Facebook（クラスフェイスブック）／あいつちを使って会話をスムーズに進める 第5回：Unit 2 Personal Motto（モットー）／意見を述べる 第6回：Unit 2 Personal Motto（モットー）／不明な点を尋ねる 第7回：Unit 3 Tall Tales（でたらめ）／物語を伝える 第8回：Unit 3 Tall Tales（でたらめ）／聞いた話を繰り返す 第9回：Unit 4 Keepsakes（思い出の品）／過去について話す 第10回：Unit 4 Keepsakes（思い出の品）／シャドウイングする 第11回：Unit 1、2、3、4の復習および口頭試験① 第12回：Unit 7 Class Cookbook（クラスの料理本）／指示を出す 第13回：Unit 7 Class Cookbook（クラスの料理本）／ゆっくり話すよう頼む 第14回：Unit 8 Business Venture（ビジネス・ベンチャー）／主な特徴を説明する 第15回：Unit 8 Business Venture（ビジネス・ベンチャー）／躊躇する 第16回：Unit 5 Team Spirit（団結心）／提案をする 第17回：Unit 5 Team Spirit（団結心）／異議を唱える 第18回：Unit 6 Hot Spots（人気の場所）／好き嫌いについて話す 第19回：Unit 6 Hot Spots（人気の場所）／提案に対して答える 第20回：Unit 7、8、5、6の復習および口頭試験② 第21回：Unit 12 Mini Debate（ミニ討論）／自分の意見を述べる 第22回：Unit 12 Mini Debate（ミニ討論）／ポイントを説明する 第23回：Unit 9 Job Interview（就職の面接）／手本に習って職業について述べる 第24回：Unit 9 Job Interview（就職の面接）／ミラーリングする 第25回：Unit 10 TV Preview（テレビの予告編）／何についてかを説明する 第26回：Unit 10 TV Preview（テレビの予告編）／感情を込めて話す 第27回：Unit 11 Public Opinion（世論）／仮説的な状況について話す 第28回：Unit 11 Public Opinion（世論）／意見を述べる 第29回：Unit 12、9、10、11の復習および口頭試験③ 第30回：総復習			
テキスト Active Skills for Communication 2 (Chuck Sandy (Author), Curtis Kelly (Author), Neil J. Anderson (Contributor)/ Heinle Cengage Learning)			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 平常点等（100点）デイリーチェック（50点）、口頭試験×3回（30点）、積極的参加度（20点）			

授業科目名： 留学準備演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：木村 麻衣子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
（テーマ）初めての留学を考えている人向けの本科目では、海外で生活を送るために必要な手続きや知識、心構えについて事前に学び、留学生生活をより有意義なものにできるよう準備を行う。 （目標）英語圏に渡航する際や、ホームステイ先、学校で使用する基本的な表現を学ぶ。留学に関しての基礎知識を持ち、それを他者にも説明することができるようになる。現地で体験するであろう事柄に対して、英語でコミュニケーションをとって問題に適切に対処し、解決することができるようになる。			
授業の概要			
入国の手続きや、ホームステイ先でのマナー、留学先の国と日本の文化の違いについて事前に知り、海外での生活で直面する可能性があるトラブルやカルチャーショック、ホームシックなど様々な問題への対処法を考える。英語圏で日常生活や学校生活を送る際に必要な基本的な英会話表現にも触れながら実際の留学生生活をイメージし、各自が留学前と留学後で自分自身にどのような変化が起こるのか、実りのある留学とは何かについて考える。毎回単語テストを行う。興味のある留学先についてリサーチをしたり、最終日には「わたしの留学」というテーマで理想の留学プランをクラス内で発表する。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション（授業の注意事項の確認・評価方法・自己紹介・留学について等）		
第2回	Unit 01 Introducing yourself 大学と専攻、クラブ活動、余暇活動について話す		
第3回	Unit 02 A Geography Lesson 地理、気候、旅行の日程について話す		
第4回	Unit 03 Arriving 旅行経験について話す、入国カードに記入する、指示と助言を理解する		
第5回	Unit 04 People 人を紹介する、仕事と人柄について話す、現在の活動について話す		
第6回	Unit 05 House Rules 物の場所を説明する、ハウスルールを理解する、部屋の使い方を理解する		
第7回	Unit 06 Orientation Ifの文を使って説明する、時間割について話す、意味を尋ねる		
第8回	Unit 07 First Lesson Day 自習活動について話す、道案内を理解する、場所について話す		
第9回	Unit 08 Activities and Trips やりたいことを伝える、必要性を理解する、義務を説明する		
第10回	Unit 09 Housework 依頼する、許可を求める、手伝いを申し出る		
第11回	Unit 10 Food and Drink 飲食物について説明する、食べ物を頼んだり提供したりする、食べ物の感想を言う		
第12回	Unit 11 Money and Shopping 服を買う、商品を比較する、サイズについて話す		
第13回	Unit 12 Safety on Campus トラブルについて話す、当時の状況を伝える、遺失物について説明する		
第14回	プレゼンテーション準備 留学先に関するリサーチ、プレゼン資料&原稿作成を行う		
第15回	プレゼンテーション 『私の留学』というテーマで、いつ、どこに、なぜ、どれくらいの期間滞在し、何をして、どんな自分になりたいか等を発表する		
テキスト：Ready for Takeoff! English for Study Abroad			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価			
①単語テスト30点 ②プレゼンテーション40点（準備への取り組み 20点 / 発表時のパフォーマンス 20点）③クラスワーク30点			

授業科目名： English for Studying Abroad		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：A.L.エイデン
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 留学において大きなチャレンジのひとつは異文化との出会いと外国語の習得である。本科目では留学や海外旅行のための準備をする過程を楽しみながら行う。本科目の目的は外国の習慣や暮らしについて受講生それぞれが自分なりに想定できるようにすることである。 (目標) 留学では異文化におけるコミュニケーションや学習スタイルを学ぶことも重要な体験のひとつである。海外生活の理想とその現実を比較する時に文化的なストレスを感じることもあるだろう。本科目では一般的なテーマに関するアクティビティやディスカッションを通じて学生が自分自身の学びやコミュニケーションのスタイルを認識できるようにする。				
授業の概要 留学や海外旅行の様々なプラス面を授業で探求する。受講生は語学力を伸ばしながら外国で経験するような文化や日常生活に関連する知識を深める。異文化に属する人々の間の違いに気づくことにより、共通する面についても認識する。この授業では海外生活のための準備をどうすればよいか考えられるような内容を扱う。				
授業計画 第1回：授業導入アクティビティと授業計画の説明 第2回：アクティビティ：国際交流 第3回：ディスカッション：コミュニケーションの国際的な意義 第4回：アクティビティ：海外生活に期待するもの 第5回：ディスカッション：時間と金銭の価値 第6回：アクティビティ：計画を立てて世界を旅する 第7回：ディスカッション：違いに対する心構え 第8回：アクティビティ：ディスカッションのスキル 第9回：ディスカッション：交渉のスキル 第10回：アクティビティ：グループワーク 第11回：プロジェクト：海外もしくは国内の社会問題 第12回：アクティビティ：グループワーク 第13回：プロジェクト：海外の人々と交流するための個人的な計画 第14回：最終発表のための確認 第15回：最終発表				
テキスト：特になし				
参考書・参考資料等 GO GLOBAL: Preparing for ESL Courses Abroad				
学生に対する評価 平常点等 (100点) 平常点等配点内訳：毎週提出の課題 (25%)，プロジェクト (40%)，小課題 (10%) 最終発表 (25%)				

授業科目名： Oral Communication	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉富 志津代
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。 （目標）英語の基礎的な語彙や文法の知識を活用しながら、インタラクティブな活動を通して、様々な状況での基本的な実用会話ができる。			
授業の概要 コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニット毎に設定し、目標達成のための演習を行う。毎授業、小テストまたはユニットテストを実施する。ペアワークやグループワークを多用したトレーニング形式の会話演習が中心で、授業は全て英語で行う。			
授業計画 第1回 授業で使う英語について / 授業のポリシーと評価について / オリエンテーション 第2回 Unit 1 知り合いになる：自己紹介&他者紹介 / 第三者の話をする。 第3回 Unit 1 個人的な情報を交換 / 提供する 第4回 Unit 3 親族・家族：家族関係を説明する。 第5回 Unit 3 親戚・家族：外見について説明する。 第6回 Unit 3 親戚・家族：ユニットテスト 第7回 Unit 4 食べ物とレストラン：食べ物や料理を説明する/食事・料理の原材料を説明する。 第8回 Unit 4 食べ物とレストラン：レストランでの注文/食べ物について話をする。 第9回 Unit 4 食べ物とレストラン：ユニットテスト 第10回 Unit 2 外出：所在地・場所・立地の話をする/所在地について前置詞を適切に使う 第11回 Unit 2 外出：指示を出すために命令形を使う/同様に、推薦や紹介の際に命令形を使う。 第12回 Unit 2 外出：ユニットテスト 第13回 Unit 6 体型を保つ：習慣について話す。 第14回 Unit 6 体型を保つ：日程を調整する。 第15回 Unit 6 体型を保つ：ユニットテスト 第16回 Unit 9 交通機関を使う：交通機関の様式について話し合う/交通機関の使用方法を教える。 第17回 Unit 9 交通機関を使う：交通機関の予約/交通機関の比較・対比・推薦・ランク付け。 第18回 Unit 9 交通機関を使う：ユニットテスト 第19回 Unit 7 休暇：過去形を使う(規則型・不規則型)/過去形とともに時間を表す前置詞を使う。 第20回 Unit 7 休暇：将来の希望や好みを表現する/その表現を使い旅行や休暇について話し合う。 第21回 Unit 7 休暇：ユニットテスト 第22回 Unit 8 服を買う：服飾アイテムの説明をする。形容詞節を使用し、服を説明する。 第23回 Unit 8 服を買う：(国内・海外の) 通貨で金額を表す/ 服を買う。 第24回 Unit 8 服を買う：ユニットテスト 第25回 Unit 10 ショッピング(賢く買い物をする)：商品の比較・対比・推薦・ランク付け。 第26回 Unit 10 ショッピング(賢く買い物をする)：お店の比較・対比・推薦・ランク付け。 第27回 Unit 10 ショッピング(賢く買い物をする)：ユニットテスト 第28回 アセスメントテスト 第29回 復習・総まとめ (Unit 1・2・3・4・6) 第30回 復習・総まとめ (Unit 7・8・9・10)			
テキスト：Top Notch 1/Joan M. Saslow, Allen Ascher/Pearson Longman			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 小テスト32点、ユニットテスト24点、アセスメントテスト20点、課題16点、クラスワーク8点			

授業科目名：データリテラシー・A Iの基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：長谷川 裕紀・榎並(住野) 直子
			担当形態：オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
（テーマ）AI・データサイエンスに関して興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき知識・技能（新たな読み書きそろばん）を習得し、日常や仕事の場で使いこなせるようになる。 （目標）・AI・データサイエンスの必要性を説明できる。 ・社会で活用されているデータ・AI活用の事例を示すことができる。 ・データを処理する際の考え方を説明できる。 ・データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる。			
授業の概要			
本授業は、パソコン操作を通じて、e-Learning教材で幅広い視点からデータサイエンス・AIに関する基礎的な知識を学習する。また、授業でわからない用語等については、自ら本やインターネットで調べながら理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、データサイエンスとは（担当：長谷川裕紀）			
第2回：社会で起きている変化（担当：長谷川裕紀）			
第3回：社会で活用されているデータ（担当：長谷川裕紀）			
第4回：AIとは（担当：榎並直子）			
第5回：AIの利活用（担当：榎並直子）			
第6回：データ活用とは（担当：榎並直子）			
第7回：データの種類、データの可視化（担当：長谷川裕紀）			
第8回：度数分布表、データの代表値（担当：長谷川裕紀）			
第9回：データの散布度、データの標準化（担当：長谷川裕紀）			
第10回：クロス集計表の見方、2つの質的データの関連性（担当：長谷川裕紀）			
第11回：散布図、相関係数、回帰分析（担当：長谷川裕紀）			
第12回：母集団と標本、標本抽出、データを利用した問題解決のステップ（担当：長谷川裕紀）			
第13回：データ・AI利活用の現場（担当：榎並直子）			
第14回：データ・AIを扱う上での留意事項（1）「ELSI」とは何か、データ活用と個人情報の保護（担当：長谷川裕紀）			
第15回：データ・AIを扱う上での留意事項（2）情報セキュリティの原則、セキュリティ技術（担当：長谷川裕紀）			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
やさしく学ぶ データ分析に必要な統計の教科書/羽山博著/株式会社インプレス			
はじめてのAIリテラシー（基礎テキスト）/岡嶋 裕史, 吉田 雅裕著/技術評論社			
学生に対する評価			
平常点等（100点）各回の確認テスト（5点×9回・4点×6回）・Excelの演習課題（3点×6回）			
・総合課題（13点）			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井谷信彦、大倉健太郎 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。また、教育実践に関わる基礎理論と実際の取り組みを学び、現代教育の抱えている課題を理解する。 （到達目標）(1)教育という営みの基本的概念、及び教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解している。(2)教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解している。(3)教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。			
授業の概要 上記（１）（２）（３）の各項目に関する講義をおこなう。また、各回のテーマに関わるテキストや資料などを活用し、ワークシートを用いた省察や、受講生同士のディスカッションの時間を設けることがある。これにより、「教育」や「子ども」めぐる思索のための基礎を養うと同時に、教員としての自覚を育む。			
授業計画 第1回：教育の意義と児童福祉：オオカミに育てられた少女？ 第2回：教育の目的と児童福祉Ⅰ：子どもの成長発達・学校教育の目的と役割 第3回：教育の目的と児童福祉Ⅱ：学校の中の教師/外の教師・子どもの権利 第4回：教育と子どもの関係性Ⅰ：「悪」の体験と子ども・地域（PTAC）で育つ子ども 第5回：教育と子どもの関係性Ⅱ：教育思想の歴史・子ども観 / 教育観 / 学校（観）の変遷 第6回：教育と子どもの関係性Ⅲ：子どもを取り巻くモノ・媒介としての教授法 第7回：子どもと環境Ⅰ：子どもを取り巻く人々・近代社会と公教育 第8回：子どもと環境Ⅱ：戦後の日本社会と教育理念・公教育の原則 第9回：子どもと環境Ⅲ：自己、他者、生命の探求・社会の「眼差し」・大人の「眼差し」 第10回：教育実践の理論と実際Ⅰ：多様な学び／多彩な授業・日本の教育行政と学校経営 第11回：教育実践の理論と実際Ⅱ：道徳性の育成と教育・日本の教育課程とその特色 第12回：教育実践の理論と実際Ⅲ：授業実践の分析・新しい教育と授業の取り組み 第13回：現代社会と教育Ⅰ：教育問題と学びのニヒリズム・生涯学習社会 第14回：現代社会と教育Ⅱ：子どもの「いまここ」に向きあう・日本の教育課題 第15回：現代社会と教育Ⅲ：教師の即興性と臨床の知・世界的な教育課題			
テキスト 井藤元編・著/『ワークで学ぶ教育学』/ナカニシヤ出版			
参考書・参考資料等 『いまがわかる教育原理』（西本望編）みらい			
学生に対する評価 ・コメントシート、ワークシート、中間試験、レポート等を含む平常点100点			

(武庫川女子大学)

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大津 尚志
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目又は事項等	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 1. 西洋・日本の教育史を概観することにより、教育を歴史的側面から考察する力を育成する。 2. 教育思想の現代的意義を探究する力を育成する。 3. 現代日本の教育課題について、歴史的に考察する力を養う。 (到達目標) ①古代から現代に至る西洋・日本の教育思想・制度の特徴を理解し、歴史的背景や現代的意義を考察できる。 ②教育の歴史を学ぶことにより、現代日本の様々な教育問題を理解できる。 ③教育思想を学ぶことによって、中高教員としての教育観を形成する。			
授業の概要 大きくわけて、(1) 日本教育史総論 (2) 日本教育史各論 (3) 西洋教育史、の順序で授業を行う。			
授業計画 第1回 はじめに、オリエンテーション 教育史を学ぶ意味 第2回 江戸時代の教育、明治維新と教育 第3回 教育勅語と戦前の教育 第4回 戦後改革と教育基本法 第5回 戦後の教育制度史(1)1960年代以降 第6回 戦後の教育制度史(2)1980年代以降 第7回 教育課程の歴史 戦前の教育課程 第8回 教育課程の歴史 戦後の教育課程 第9回 部活動の歴史 第10回 生徒指導の歴史 第11回 校則の歴史(1)戦前 第12回 校則の歴史(2)戦後 第13回 女子教育史 第14回 アメリカ・イギリス教育史 第15回 フランス・ドイツ教育史			
テキスト 伊藤良高ほか編/ポケット教育小六法/晃洋書房 中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月 文部科学省) 大津尚志『校則を考える』/晃洋書房			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 ・ レポート[作品含む](15点) ・ 平常点等(85点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度(10点)、中テスト(25点×3)			

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大倉健太郎、中山大嘉俊 長井勘治 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1. 中高教員または栄養教諭として必要な資質能力や基礎的知識について講じる。 2. 特に教職の意義および役割、職務内容についての理解を深める。 3. 教育への理解と教職への関心を高め、進路選択における主体的な夢を喚起し、以後の学年次の教職課程履修への自覚と意欲を高揚させる。 （到達目標） ①教職全体について総合的に理解し、4年間の大学生活および教職課程履修について、学ぶ意欲と計画性を高める。 ②教職の意義や教員の果たす役割を理解し、教職を志す意識を明確にもつ。 ③明確な教員像をもつことができるよう、教員の職務内容は校務分掌に基づき分担され、学校が組織として機能していることを理解する。			
授業の概要 公教育の目的とその担い手である教師の役割をテーマとし、今日の学校教育が果たすべき課題や抱える問題に対して、教師にはどのような役割が求められており、どのような資質能力が必要とされているのかを考える。さらに、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校内外の専門家やステークホルダーと、いかに連携・分担して対応しているか、また対応すべきかを検討する。また、教育の可能性や素晴らしさ、やりがい等について触れることで、教職に就くための意欲や適性を考える機会としたい。			
第1回 オリエンテーション 第2回 教職について：公教育の目的と教師のあり方 第3回 教育課題と教師の役割について：学校の現状や学校を取り巻く環境、授業や教育方法の今日的課題、そして教師に対する期待などについて 第4回 学校教育の仕組み：教師の養成や採用、研修、教育関連法、中教審、教育委員会、学校組織、学級経営、学校評価制度、チーム学校運営など 第5回 教員の職務Ⅰ：教師の職務 第6回 教員の職務Ⅱ：教師の資質能力とその仕事について 第7回 教員の服務Ⅰ：教師の服務 第8回 教員の服務Ⅱ：服務に基づく教師の役割について 第9回 事例研究Ⅰ：行事について（修学旅行、遠足等）・ニューカマーの子どもたち 第10回 事例研究Ⅱ：行事について（体育祭、文化祭等）・児童虐待とネグレクト 第11回 事例研究Ⅲ：分掌業務について（教務、進路指導、「チーム学校」運営等）・家庭の貧困 第12回 事例研究Ⅳ：分掌業務について（生徒/保健指導、学校運営等）・高校教育 第13回 事例研究Ⅴ：部活動について（技術指導、年間計画の作成等）・防災・安全教育 第14回 事例研究Ⅵ：部活動について（学年を超えたチームワーク、保護者との連携等）・生徒指導 第15回 まとめ：今後の展望			
テキスト： 教育の最新事情がよくわかる本2020/教育開発研究所編/教育開発研究所			
参考書・参考資料等： 中高・学習指導要領（平成29・30年度告示）および解説、保健体育編/文部科学省/東山書房			
学生に対する評価 ・レポート、課題発表、課題提出、試験等を含む平常点100点			

授業科目名： 教育行政学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大津尚志、楠山研
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1. 中高教諭または栄養教諭に必要な、わが国現行の公教育制度とその行政・政策システムに係る教育法規について教育行政学の視点から講義し、理解を深める。 2. 現代の公教育制度を運営 ・管理・改革する教育行政およびその実践主体としての学校の経営と学級経営について、基礎的知識・技能を学ぶ。 （到達目標） ①教育的行為が日常的に展開されている基本的な教育空間と教育機能等について基礎的理解を得る。 ②公教育制度としての学校教育システムについて、法制度の視点から基礎的知識を得る。				
授業の概要 教育は法律がつくる制度のなかでおこなわれるものである。よりよい教育実践を行うためには教育制度についての理解も不可欠である。教育と法律の関係をより深く理解することを求める。法律にもとづいて執行される教育行政についてのさまざまな問題を扱う。				
授業計画 第1回：教育行政学を学ぶ目的 第2回：教育と法(教育を受ける権利、教育基本法と教育行政) 第3回：教育行政の歴史 1（戦前）戦前の制度原理 第4回：教育行政の歴史 2（戦後）戦後改革の原理など 第5回：家庭教育と法（地域社会と教育行政、「ひらかれた学校」の意義、地域との連携・協働） 第6回：保育・幼児教育と法（幼児教育行政、認定こども園制度など） 第7回：学校制度と法（義務教育制度、私立学校制度など制度原理に関する事項） 第8回：学校経営と法（地域社会・保護者と学校との連携） 第9回：教育課程と法（教育内容行政） 第10回：生活指導・学校安全と法（生徒の懲戒、体罰、危機管理・事故対応） 第11回：校則と教育行政（生活指導と校則） 第12回：教員制度と法（教員養成・採用・研修、教員関連法規） 第13回：教育行財政と法（教育の地方自治、教育委員会制度） 第14回：教育と社会福祉と法（子どもの貧困対策と教育行政）、社会教育・生涯学習と法 第15回：学校と地域との連携、学校安全への対応、まとめ、小テスト				
テキスト 伊藤良高ほか編『新版 教育と法のフロンティア』晃洋書房 伊藤良高ほか編『ポケット教育小六法』晃洋書房 大津尚志 『校則を考える』				
参考書・参考資料等 授業中に指示する。				
学生に対する評価 ・レポート[作品含む](10点) ・平常点等(90点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度（10点）、小テスト（80点）				

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：北口勝也、松田信樹 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
（テーマ） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を身につける。心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得し、主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。 （到達目標） (1) 乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得している (2) 主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解している (3) 教育における心理学の意義を理解し、具体的な問題解決を志向する態度を身につけている。			
授業の概要			
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を身につける。心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得し、主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。			
授業計画			
第1回：心理学とはどのような学問か？－教育心理学（発達と学習の心理学）を学ぶ意義－			
第2回：学習のメカニズム①：学習のしくみを知る			
第3回：学習のメカニズム②：行動のしくみを知る			
第4回：「やる気」の心理学①：学習に対する動機づけのしくみ			
第5回：「やる気」の心理学②：学習に対する動機づけの形成			
第6回：学習を支える記憶のメカニズム①：記憶のしくみを知る			
第7回：学習を支える記憶のメカニズム②：記憶に残る教授法を考える			
第8回：だれのための評価？－教授法と教育評価：いかに教え、いかに評価するか－			
第9回：学級集団の理解　－中間テスト実施－			
第10回：生徒の発達過程－人間が発達するとはどういうことか：発達観の明確化－			
第11回：性格とは何か？－人間の発達を支える2つの柱：遺伝と環境－			
第12回：生涯発達のあゆみ①：新生児期から乳児期にかけての発達			
第13回：生涯発達のあゆみ②：幼児期から児童期にかけての発達			
第14回：生涯発達のあゆみ③：生徒に見られる心の問題－青年期の発達－			
第15回：発達障がいを抱える子どもの発達と学習の過程			
定期試験			
テキスト			
松田信樹/育ちと学びの心理学－こどもの成長に寄り添うために－/あいり出版			
参考書・参考資料等			
やさしい教育心理学 鎌原 雅彦, 竹綱 誠一郎 有斐閣アルマ			
学生に対する評価			
・平常点等(100点)：中間テスト 30 点、提出を求められた課題への取り組み 20 点、最終テスト50点			

(武庫川女子大学)

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田絵美、稲葉小由紀
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 1. 人間の発達を単なる成長と捉えることなく、乳幼児期から青年期の各時期に起こる様々な事象を通して発達し続けていることを学ぶ。 2. 特に人間の心理的発達について、心理学的視点から考察を深める。 (到達目標) ①乳幼児から成人までの発達過程を理解する。②中学生および高校生の発達課題を理解し、教育実践に生かすことができる。			
授業の概要 発達心理学は、人の心の発達の变化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の筋道が含まれる。発達とは、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。 また、中学生や高校生における不適応の問題の根源は、乳児期および幼児期に形成されることが極めて多い。その時期の発達の基礎を確実に身につけることで、その後の思春期や青年期での健全な発達のサポートが可能となる。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達の視点からとらえる姿勢を養うことを目標とする。			
授業計画 第1回 発達心理学とはなにか 第2回 発達のもつ性質、発達における遺伝と環境の問題 第3回 初期経験の重要性、発達段階と発達課題の考え方 第4回 乳児の認知能力の発達、視覚の発達、行動の特徴 第5回 人見知り、乳児の気質、愛着の形成と親子関係 第6回 乳児期から幼児期のことばの発達 第7回 自我の発達、第一次反抗期 第8回 認知・思考の発達、ピアジェの認知発達論、思考の特徴 第9回 遊びの発達とこころの理論、発達障害 第10回 仲間関係の発達、集団成員間の人間関係 第11回 読み書き計算の能力の発達、道徳性の発達 第12回 思春期・青年期の認知の発達 第13回 自我同一性と社会性の発達 第14回 成人期・老年期の特徴、死への準備 第15回 発達心理学のまとめ—まとめテスト実施—			
テキスト よくわかる発達心理学 第2版/無藤隆・岡本祐子・大坪泊彦（編）/ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業内で実施する小テスト（50点）・まとめテスト（50点）			

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田裕彦、渡邊真美 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 1. 特別支援学校教諭だけでなく、通常学級担任も各種障害について知識や技能が求められていることの現状と背景について講じる。2. 各種の障害を有する幼児児童生徒への効果的な教育や支援のあり方や関係機関との連携を密にした教育実践を行うため知識や技能を理解する。3. 障害はないが特別の教育ニーズのある幼児児童生徒の学習上、生活上の困難とその対応を理解する。 (到達目標) ①各種の障害および障害児について基本事項を理解する。②障害児を指導するための実態把握や指導方法を知る。③各種の障害に基づいた教育のあり方を理解する。④障害児を育てる保護者の心情を理解する。⑤障害児者が置かれている社会的状況を知る。⑥事例をもとに指導方法を考えることができる。⑦障害はないが特別の教育ニーズのある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。			
授業の概要 ・ インクルーシブ教育システムの構築の理念とその背景を中心とした基礎知識 ・ 発達の原理と発達を踏まえた指導 ・ 特別支援学校、特別支援学級、通常学級における合理的配慮と教育課程 ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画と自立活動 ・ 各障害の基礎知識と指導方法 ・ 特別の教育ニーズに対応する校内支援体制と保護者や関係機関との連携			
授業計画 第1回：特別支援教育の動向と求められる教員の資質 第2回：子どもの発達と自立活動の教育課程上の位置づけと内容 第3回：視覚障害の基礎知識と指導方法 第4回：聴覚障害の基礎知識と指導方法 第5回：知的障害の基礎知識と指導方法 第6回：肢体不自由の基礎知識と指導方法 第7回：病弱・身体虚弱の基礎知識と指導方法 第8回：重度重複障害の基礎知識と指導方法 第9回：言語障害の基礎知識と指導方法 第10回：自閉症・情緒障害の基礎知識と指導方法 第11回：学習障害の基礎知識と指導方法 第12回：注意欠如多動性障害の基礎知識と指導方法 第13回：特別な支援を必要とする児童生徒について 第14回：特別支援教育における校内支援体制について 第15回：家庭と教育と福祉等との連携について			
テキスト			
参考書・参考資料等 特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）、高等部（平成31年2月 文部科学省）、障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（令和3年6月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）その他、授業中に適宜資料を提示。			
学生に対する評価 ・ 小レポート等の平常点：60点 ・ テスト（複数回実施）：40点			

授業科目名： 教育課程総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大津尚志
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1. 新教育基本法によるわが国教育の基本的な目的と方向性を理解し、特に「新学習指導要領」の理念や教育課程についてその基本となる事項や実践上の課題等、具体的な理解を図る。 2. 現場での教育課程の編成、方法や技術など教育活動をより効果的に実践していくための運営とその能力を育成する。 3. 上記目的を踏まえ、教育課程論の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。 （到達目標） 学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成するカリキュラム編成力を高める。 ①学習指導要領を理解し、教育課程編成の基準となる事項および教育活動の内容を理解する。 ②教育課程論、教育内容・方法論等に係る具体的実践事例を通して、学校教育のあり方、カリキュラムのあり方を常に創造的に問い直すことのできる能力と姿勢を身に付ける。			
授業の概要 平成30年に新しい高等学校学習指導要領が告示された。学習指導要領がどのような考え方にもとづいてつくられているか、改訂の基本方針など、各教科の指導法を学んでいくための前提となる知識を身につけることを主たる内容とする。また、総合的な学習の時間、特別活動の指導法についても言及する。			
授業計画 第1回 はじめに 教育課程とは 第2回 教育課程と法規 教育基本法 学校教育法など 第3回 教育課程の歴史 戦前 第4回 教育課程の歴史 戦後 第5回 平成29年版学習指導要領（総則1 改訂の経緯、基本方針ほか） 第6回 平成29年版学習指導要領（総則2 配慮事項ほか） 第7回 平成29年版学習指導要領（総合的な探究の時間、カリキュラム編成、理論と実践） 第8回 平成29年版学習指導要領（特別活動1 学級活動、生徒会活動） 第9回 平成29年版学習指導要領（特別活動2 学校行事、部活動） 第10回 教育課程と学習評価、カリキュラム評価 第11回 教育課程の経営と編成（カリキュラムマネジメント・教科、総合、道徳、特活すべてを含む） 第12回 ヒドゥン・カリキュラム論 第13回 アメリカ・イギリスの教育課程 第14回 フランス・ドイツの教育課程 第15回 まとめと小テスト			
テキスト 中学校学習指導要領解説 総則編/文部科学省/東山書房 中学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東山書房 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編/文部科学省/東山書房 高等学校学習指導要領解説 総則編/文部科学省/東洋館出版社 高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東京書籍 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編/文部科学省/学校図書 ポケット教育小六法 /伊藤良高/晃洋書房 新版 教育課程論のフロンティア/大津尚志ほか編/晃洋書房 校則を考える/大津尚志/晃洋書房			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度(10点)、小レポート(10点)、小テスト(80点) 参加人数によってはテストにかえてレポートを課す場合がある。授業中に指示する。			

授業科目名： 総合的な学習の時間と特別活動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：溝邊和成、藤本勇二 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 総合的な学習の時間の指導法（中学校） ・ 総合的な探究の時間の指導法（高等学校） ・ 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）小・中・高等学校学習指導要領に示された総合的な学習（探究）の時間および特別活動の特徴をとらえるとともに具体的な演習等を通して、初等中等教育における総合学習や特別活動の指導のあり方について理解を深める。 （到達目標）学習指導要領における総合的な学習（探究）の時間・特別活動の目標および内容を理解している。各校種（小学校～高等学校）における教育課程上の位置付けや他教科等との関連を理解している。活動の特質を理解し、適した指導計画や指導法のあり方について理解している。			
授業の概要 前半に、総合的な学習（探究）の時間に関する講義・演習を行い、後半に特別活動の講義・演習を行うことを通して、ねらいや内容、具体的な活動事例、指導法等について理解を深め、指導力向上をめざす。			
授業計画 第1回：本講義の特徴と授業計画の提示（講・演）：「総合的な学習（探究）の時間」（前半）・「特別活動」（後半）の流れを示す。スキルアップワーク「学習計画」（総合・探究）「自己紹介・他者紹介」（特活） 第2回：「総合的な学習（探究）の時間」編1（講・演）：「総合的な学習（探究）の時間」の意義・目標・内容等を校種別に整理する（成立と変遷）。グループワーク（ジグソー法）「各学習指導要領上に見られる特徴・内容・配慮事項」 第3回：「総合的な学習（探究）の時間」編2（講・演）：テーマ・内容設定の考え方（テーマの設定と設定方法の検討等）グループワーク（テーマの設定）「テーマ例：環境・福祉・キャリア・情報・経済・文化遺産等」 第4回：「総合的な学習（探究）の時間」編3（講・演）：指導計画の立案に関する考え方（各教科等との関連、年間指導計画等）スキルアップワーク（指導計画）「年間指導計画案作成」 第5回：「総合的な学習（探究）の時間」編4（講・演）：単元デザイン（単元目標・内容・構成・展開）スキルアップワーク（単元作成）「探究的なプロセスを踏まえた単元づくり」 第6回：「総合的な学習（探究）の時間」編5（講・演）：学習指導（主体的・対話的で深い学びの工夫と留意点）グループワーク（探究活動に必要な指導スキル）「具体的な指導技術（思考ツールの活用等）」 第7回：「総合的な学習（探究）の時間」編6（講・演）：指導と評価（学習過程および評価法に関する留意点等）スキルアップワーク（評価法）「評価の考え方と評価テクニック」 第8回：「総合的な学習（探究）の時間」編7（講・演）：体制づくり（校内組織、時間運用、環境整備、外部との連携）グループワーク（マネジメントに必要なデザイン思考）「校種別に見る共通点・差異点等」 第9回：「特別活動」編1（講・演）：学習指導要領（戦後～現在）の「目標・内容・方法」を整理する（成立と変遷）。スキルアップワーク（協働による模擬試験の解答） 第10回：「特別活動」編2（講・演）：出身校における調査から学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特徴を理解する。スキルアップワーク（ネット検索・情報編集・分析・まとめ・報告） 第11回：「特別活動」編3（講・演）：学級活動・ホームルーム活動（教育課程上における意義と指導のポイント）グループワーク（ソーシャルワーク・ゲームの活用） 第12回：「特別活動」編4（講・演）：児童会・生徒会活動（教育課程上における意義と指導のポイント）スキルアップワーク（プランニングとポートフォリオ） 第13回：「特別活動」編5（講・演）：学校行事・クラブ活動（教育課程上における意義と指導のポイント）グループワーク（活動の整理と地域連携の事例検討）/スキルアップワーク（マイキャリアシート） 第14回：「特別活動」編6（講・演）：指導計画と評価（他教科連携、協働的な学びに繋がる活動計画と地域連携型評価）プレゼンテーション・グループワーク（プランニングシート・評価ツール） 第15回：本講義のまとめ（講・演）：本講義内容「総合的な学習（探究）の時間」と「特別活動」に対する自らの学びを振り返る。スキルアップワーク（ジャーナル作成）「本講義で学び得たこと」			
テキスト 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編／特別活動編／総則編（平成29年6月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編／特別活動編／総則編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編／特別活動編／総則編（平成30年7月 文部科学省）			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に紹介する。			
学生に対する評価 レポート提出（20点）、課題（スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション）レポート・作品等提出（60点）、授業中の態度（20点）とともに、学生による自己評価も加味して、総合的に評価する。 （評価基準） 出席レポート： 講義中に学んだことを要約し、自分の意見を明確に述べている（A） 講義中に学んだことを要約していたり、自分の意見を述べていたりしている。（B） 講義中に学んだことも自分の意見も明確に述べていない（C） 課題（スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション）レポート・作品等： 自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを明確かつ簡潔に表している（A） 自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを表している（B） 自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを表しきれていない（C） 授業中の態度： 自分の意見を持って主体的に参加するとともに他者との協力も積極的に行うことができている（A） 自分の意見を持って参加するとともに他者との協力もできている（B） 自分の意見を持った参加や他者との協力ができていない（C）			

授業科目名： 教育方法の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：中川昌幸、中尾尊洋
			担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 1. 教育方法学の概要を学び、教授・学習に焦点をあてて理論と実践の乖離を超克し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識を習得する。 2. 「教育方法学」の領域は、授業の技術的原理に関する問題だけではなく、教室における子どもの学習の経験の問題、カリキュラム構成と評価に関する問題、教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを学ぶ。 (到達目標) (1) 教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の概観などに関する基礎的な知識を修得することを通して、より豊かな教育観、授業観をもつことができる。 (2) 授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連付けて説明することができる。			
授業の概要 日本や諸外国の教育方法を、学力観、学習指導法、教育メディアの利用、保育・授業研究の方法論を視点として、解説する。また、授業の事例を提示したり受講生自身で調べてもらったりし、受講生同士の対話を通じて多様な教育方法に関する知識を理解し、学習内容を反映した指導案を策定する。			
授業計画 第1回：教育方法学の概観 (担当：中川) 第2回：近代教育思想と教授学の成立 (担当：中川) 第3回：授業の設計と学習指導案の作成 (担当：中尾) 第4回：教育目的・教育目標、資質・能力 (担当：中尾) 第5回：教材・教具、教科書の役割 (担当：中川) 第6回：教授行為、板書・発問の技術 (担当：中川) 第7回：学習形態 個別学習、一斉学習、討論学習 (担当：中尾) 第8回：教育評価と学習評価、パフォーマンス評価 (担当：中尾)			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之/新しい時代の教育方法(改訂版)/有斐閣アルマ 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年 文部科学省)			
学生に対する評価 平常点(60点：学習の記録30・発表30点)、レポート課題(40点)			

授業科目名： 教育方法の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大山正博
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）1. 教育方法学の概要を学び、教授・学習に焦点をあてて理論と実践の乖離を超克し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識を習得する。2. 「教育方法学」の領域は、授業の技術的原理に関する問題だけではなく、教室における子どもの学習の経験の問題、カリキュラム構成と評価に関する問題、教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを学ぶ。 （到達目標）（1）教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の概観などに関する基礎的な知識を修得することを通して、より豊かな教育観、授業観をもつことができる。（2）授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連付けて説明することができる。			
授業の概要 日本や諸外国の教育方法を、学力観、学習指導法、教育メディアの利用、保育・授業研究の方法論を視点として、解説する。また、授業の事例を提示したり受講生自身で調べてもらったりし、受講生同士の対話を通じて多様な教育方法に関する知識を理解し、学習内容を反映した指導案を策定する。			
授業計画 第1回：教育方法学の概観 第2回：近代教育思想と教授学の成立 第3回：授業の設計と学習指導案の作成 第4回：教育目的・教育目標、資質・能力 第5回：教材・教具、教科書の役割 第6回：教授行為、板書・発問の技術 第7回：学習形態 個別学習、一斉学習、討論学習 第8回：教育評価と学習評価、パフォーマンス評価			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之/新しい時代の教育方法（改訂版）/有斐閣アルマ 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）高等学校学習指導要領（平成30年 文部科学省）			
学生に対する評価 平常点(60点：学習の記録30・発表30点)、レポート課題（40点）			

授業科目名： ICT活用の理論と実践		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松本宗久、藤本 光司、佐藤万寿美、榎並(住 野)直子
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 1. 情報通信技術（以下 ICT）の活用と理論を理解する。 2. ICT を効果的に活用した学習指導や校務の推進のあり方を理解する。 3. 生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための基礎的な指導法に関する知識や技 能を身につける。 (到達目標) ①個別最適な学び、協働的な学びの実現や主体的・対話的で深い学びの実現に向け た授業改善の観点から、学校教育における ICT の活用の意義とあり方を理解する。 ②学校教育における ICT の活用を支える ICT 環境整備、外部人材・外部機関との連携、教育情 報セキュリティの重要性について理解する。 ③ICT を効果的に活用した校務の推進について理解する。 ④教科等横断的な情報活用能力の育成や、各教科等の指導における ICT 活用についての理論と 方法を身につける。 ⑤教育データを活用した学習指導や学習評価、遠隔・オンライン教育についての理論と方法お よびそれらに必要な機器操作を身につける。				
授業の概要 教育現場におけるICTの活用について、理論と社会的背景をふまえた上で、情報活用能力に関 して、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけや情報モラル等について解 説する。また、現場での授業における生徒および教員によるICT活用の他、教育データの活用 と校務の推進や、遠隔・オンライン教育について取り上げる。なお、本講義では、教員による 解説・事例紹介とともに、学生自身が各種ICT機器や環境を活用し、体験的に学修する機会を 設ける。				
授業計画 第1回 教育の情報化に関する理論と社会的背景、学校の ICT 環境 第2回 情報活用能力の育成（1）学校生活と教科等横断的な情報活用能力の育成 第3回 情報活用能力の育成（2）情報モラル（デジタルシティズンシップ）の育成 第4回 学習指導と校務のための ICT 活用（1）学びの個別最適化・協働化と教科等における ICT 活用 第5回 学習指導と校務のための ICT 活用（2）教科等における ICT 活用の指導事例、特別支 援における ICT 活用 第6回 学習指導と校務のための ICT 活用（3）遠隔・オンライン教育の意義とシステム活用 法 第7回 学習指導と校務のための ICT 活用（4）教育データの活用と校務の推進 第8回 情報セキュリティ、まとめとふりかえり				
テキスト 適宜、プリント教材を配布・配信する。また講義内で、参考図書・文献を紹介する 予定である。				
参考書・参考資料等 デジタル・シティズンシップ:コンピュータ1人1台時代の善き使い手を めざす学び 大月書店 ISBN-13:978-4272412594				
学生に対する評価 1. 小試験（講義中に実施）40%、2. レポート 40%、3. 授業態度20%、の総合評価				

(武庫川女子大学)

授業科目名： 生徒指導・進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：濱崎伸樹、橋本光能
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目又は事項等	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 1. 学校現場において、いじめ・不登校・暴力行為・学級崩壊など様々な問題が生起している実態や背景・原因等を知る。 2. 生徒指導の意義を正しく理解するとともに、生徒指導上の課題にいかに対応し得るかを主体的かつ具体的に考察する。 3. 進路指導上の課題と対応について考察する。 (到達目標) ①生徒指導の意義と機能について理解する。②教育課程と生徒指導の関連を理解する。③生徒指導体制の重要性を理解する。④青年期の心理と発達の特徴を理解する。⑤生徒理解の方法を理解する。⑥進路指導の意義と方法を理解する。			
授業の概要 20世紀初頭にはじまる生徒指導の歴史的・理論的な流れを追い、今日の到達点と課題を考察する。とくに非行、不登校、発達障害、虐待、進路指導などの生徒指導上の実態や今日的課題とそれへの実践的対応を具体的に提示し、学生自身が体験的とらえている事実と照合させながら考えさせたい。また、先進的な生徒指導実践を紹介し、教員間やカウンセラー、関係諸機関、保護者との連携や協働（カンファレンス、コンサルテーションなど）についても詳説する。			
授業計画 第1回：学校教育と生徒指導および進路指導－生徒指導・進路指導の位置づけ、意義、機能 第2回：生徒指導実践の実際－子ども理解と生徒指導の在り方（個別指導・集団指導） 第3回：現代の生徒指導の課題(1)学級担任の役割と生徒指導 第4回：現代の生徒指導の課題(2)児童虐待など支援が必要な子どもたちとその背景 第5回：現代の生徒指導の課題(3)学習の背景としての家庭と親の教育観 第6回：現代の生徒指導の課題(4)校則と子どもの生活を圧迫する学校の課題 第7回：生徒指導・進路指導の理論(1)日々の指導のあり方とキャリア・カウンセリング 第8回：生徒指導・進路指導の理論(2)積極的生徒指導（開発・予防的指導）と消極的生徒指導（治療的指導） 第9回：生徒指導・進路指導の理論(3)教育相談とカウンセリング、カンファレンス 第10回：生徒指導の理論(1)不登校の実態と相談活動、関係機関との連携 第11回：生徒指導の理論(2)子ども理解・子どもに寄り添う生徒指導 第12回：生徒指導の理論(3)いじめ問題の実態、背景と組織的対応 第13回：進路指導の課題と実際(1)進路に関する子どものストーリーと進路指導、教師のあり方 第14回：進路指導の課題と実際(2)発達課題を支援する教育相談・進路相談、福祉機関との連携 第15回：進路指導における学校と家庭、地域、関係機関との連携－コンサルテーションの意義とそのあり方			
テキスト 生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 ・ レポート [作品を含む] (60点) ・ 平常点等 (40点) 平常点等配点内訳：授業中の課題テスト及び小レポート40点			

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：磯部美良、吉野智富美、 宋知潤
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 1. 教師に求められる同僚や保護者と協働できるコミュニケーション能力、自己表現力を、臨床心理学やカウンセリング事例等に基づき講じる。 2. 「聴く」力を養い、問題行動のもつ意味、予防方法、問題が生じた時、教師や保護者ができることについて学ぶ。 （到達目標） ①学校教育における教育相談の重要性について理解を深め、学校教育において直面する多様な問題に適切に取り組むことができる。 ②教育相談の知識と基礎的能力を修得する。 ③自分の考え方や価値観を自覚し、コミュニケーション能力を身につける。			
授業の概要 教員にとって必須である教育相談の知識(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)を身に付けるために、基礎的な心理学的知見と、それらを教育の現場でどのように応用するかを学ぶ。前半は、教育相談の対象となる様々な課題を把握し、支援するための基礎的な知識について学習する。後半は、それらの課題に対してどのように対応したらよいのかについて、心理学的知見を応用しながら、事例を通して、教育相談の具体的な進め方を理解する。受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な技法の学習・定着のため、適宜、ロールプレイやグループワーク、グループ討論を行う。			
授業計画 第1回：教育相談を学ぶ意義と現代的課題 第2回：不適応や問題行動を捉える心理学的視点 第3回：不適応や問題行動への基本的な対応 第4回：子どもたちのシグナル 第5回：カウンセリングマインドの必要性 第6回：カウンセリングの基本的な姿勢と技法 第7回：教育相談の具体的な進め方 第8回：事例から考える（1）いじめ 第9回：事例から考える（2）不登校 第10回：事例から考える（3）発達障害 第11回：事例から考える（4）虐待 第12回：事例から考える（5）非行 第13回：事例から考える（6）保護者との関わり 第14回：組織的な取り組みや専門機関との連携の必要性の理解 第15回：教員のメンタルヘルス			
テキスト 生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省） 認知行動療法を活用した子どもの教室マネジメントー社会性と自尊感情を高めるためのガイドブック（ウェブスター・ストラットン著、金剛出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業中に行う小レポートが40点、提出物が60点			

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2 単位		教科担当教員：井浪真吾 教職担当教員：大倉健太郎	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	×
受講者数 20 人（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施）					
教員の連携・協力体制					
①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
授業の到達目標及びテーマ					
（テーマ） 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。					
（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨牀的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
授業の概要					
高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要（担当：大倉）					
第2回 教員の職務と資質・能力（担当：大倉）					
第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：大倉）					
第4回 ICTの活用と学校教育（担当：大倉）					
第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：大倉）					
第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：大倉）					
第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）					
第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）					
第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：大倉）					
第10回 道德教育の指導と計画（担当：大倉）					
第11回 国語科の目標と内容（演習）（担当：井浪）					
第12回 国語科の授業設計（演習）（担当：井浪）					
第13回 国語科の授業実践（演習）（担当：井浪）					
第14回 国語科の授業分析（演習）（担当：井浪）					
第15回 国語科の実践主体（演習）（担当：井浪）					
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
テキスト					
中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編					
参考書・参考資料等 吉川芳則編著『アクティブ・ラーニングを位置付けた中学校国語科の授業プラン』（明治図書出版・2016年）					
学生に対する評価					
・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：					
A 教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】					
B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2 単位		教科担当教員：本井優太郎 教職担当教員：大倉健太郎	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取（※2）	×
受講者数 20 人（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施）					
教員の連携・協力体制					
①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
授業の到達目標及びテーマ					
（テーマ） 1. 中学校や高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。					
（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
授業の概要					
中学校・高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を行う。社会性および対人関係能力について、ロールプレイング等を用いて検証する。生徒への人間的理解と学級経営実践力について、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどを行い検証する。さらに、教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証しながら、今後の課題を明らかにする。					
第1回 本講の目的と概要（担当：大倉）					
第2回 教員の職務と資質・能力（担当：大倉）					
第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：大倉）					
第4回 ICTの活用と学校教育（担当：大倉）					
第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：大倉）					
第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：大倉）					
第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）					
第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）					
第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：大倉）					
第10回 道德教育の指導と計画（担当：大倉）					
第11回 社会科・地理歴史科目の授業計画と方法（担当：本井）					
第12回 専門的知識を活かした教材づくり（担当：本井）					
第13回 フィールドワークの意義と方法（担当：本井）					
第14回 模擬授業の実践と批評（1） 中学校社会科（担当：本井）					
第15回 模擬授業の実践と批評（2） 高等学校地理歴史（担当：本井）					
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
テキスト					
中学校、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編、					
参考書・参考資料等					
『中学社会 歴史 未来を開く』（教育出版、令和3年）、『詳説日本史B 改訂版』（山川出版社、令和3年）、『詳説日本史図録 第9版』（山川出版社、令和3年）					
学生に対する評価					
・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：					
A教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】					
B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2 単位		教科担当教員：村田成範 教職担当教員：中野 貴	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20 人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
教員の連携・協力体制					
①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
授業の到達目標及びテーマ					
(テーマ) 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。					
(到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨牀的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
授業の概要					
高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要（担当：中野）					
第2回 教員の職務と資質・能力（担当：中野）					
第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：中野）					
第4回 ICTの活用と学校教育（担当：中野）					
第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：中野）					
第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：中野）					
第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：中野）					
第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：中野）					
第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：中野）					
第10回 道德教育の指導と計画（担当：中野）					
第11回 中学校・高等学校「理科」の教育実習時の授業報告およびディスカッション（担当：村田）					
第12回 「理科」授業におけるデジタル教科書などICTの効果的な活用法、教材開発や生徒の活用含む (担当：村田)					
第13回 「理科」授業における観察力とコミュニケーション・評価方法（担当：村田）					
第14回 「理科」の模擬授業の実施・相互検討①（担当：村田）					
第15回 「理科」の模擬授業の実施・相互検討②と総合講評（担当：村田）					
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
テキスト					
中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究刊編					
参考書・参考資料等					
必要な資料は授業内で配布する。					
学生に対する評価					
・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：					
A 教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】					
B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位		教科担当教員：大澤智恵 教職担当教員：中野 貴	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	×
受講者数 20 人（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施）					
教員の連携・協力体制 ①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
授業の到達目標及びテーマ （テーマ） 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。 （到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨病的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
授業の概要 高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要（担当：中野） 第2回 教員の職務と資質・能力（担当：中野） 第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：中野） 第4回 ICTの活用と学校教育（担当：中野） 第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：中野） 第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：中野） 第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：中野） 第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：中野） 第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：中野） 第10回 道徳教育の指導と計画（担当：中野） 第11回 教育実習時の音楽科授業より課題の抽出、第12～第15回の授業分析・模擬授業について（担当：大澤） 第12回 音楽科授業における指導活動と学習活動の組織、授業の段取り力（担当：大澤） 第13回 音楽科授業におけるコミュニケーション・観察力・評価（担当：大澤） 第14回 音楽科授業における教材開発と環境の整備（担当：大澤） 第15回 音楽科教師の困難の克服と成長、生涯の支えとなる音楽教育へ（担当：大澤）					
テキスト 新版 中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法 / 齊藤忠彦・菅 裕 編著/教育芸術社					
参考書・参考資料等 音楽科における教師の力量形成/高見仁志/ミネルヴァ書房					
学生に対する評価 ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：A教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】 B教科系30%【④授業構想力と実践力】 C教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2 単位		教科担当教員：満武華代 教職担当教員：大倉健太郎	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	×
受講者数 20 人（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施）					
教員の連携・協力体制					
①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
授業の到達目標及びテーマ					
（テーマ） 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。					
（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨病的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
授業の概要					
高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要（担当：大倉）					
第2回 教員の職務と資質・能力（担当：大倉）					
第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：大倉）					
第4回 ICTの活用と学校教育（担当：大倉）					
第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導					
第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：大倉）					
第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）					
第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）					
第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：大倉）					
第10回 道德教育の指導と計画（担当：大倉）					
第11回 中学校・高等学校「保健体育」の指導力に関する事項（1）-教材理解力-（担当：満武）					
第12回 中学校・高等学校「保健体育」の指導力に関する事項（2）-教材開発力（ICT活用含む）-（担当：満武）					
第13回 中学校・高等学校「保健体育」の指導力に関する事項（3）-指導計画力-（担当：満武）					
第14回 中学校・高等学校「保健体育」の指導力に関する事項（4）-授業実践力（ICT活用含む）-（担当：満武）					
第15回 中学校・高等学校「保健体育」の指導力に関する事項（5）-授業省察力-（担当：満武）					
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
テキスト					
中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編					
参考書・参考資料等					
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編・英語編（文部科学省）					
学生に対する評価					
・平常点等（100点） 平常点等配点内訳：					
A 教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】					
B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2 単位		教科担当教員：末弘由佳理 教職担当教員：中野 貴	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握（※ 1）	○	学校現場の意見聴取（※ 2）	×
受講者数 20 人（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施）					
教員の連携・協力体制					
①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
授業の到達目標及びテーマ					
（テーマ） 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。					
（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
授業の概要					
高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要（担当：中野）					
第2回 教員の職務と資質・能力（担当：中野）					
第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：中野）					
第4回 ICTの活用と学校教育（担当：中野）					
第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：中野）					
第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：中野）					
第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：中野）					
第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：中野）					
第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：中野）					
第10回 道德教育の指導と計画（担当：中野）					
第11回 中学校・高等学校「教科家庭」の教育実習時の授業報告およびディスカッション（1）（担当：末弘）					
第12回 中学校・高等学校「教科家庭」の教育実習時の授業報告およびディスカッション（2）（担当：末弘）					
第13回 中学校・高等学校「教科家庭」の各分野に関する教材開発および指導案の作成（1）（担当：末弘）					
第14回 中学校・高等学校「教科家庭」の各分野に関する教材開発および指導案の作成（2）（担当：末弘）					
第15回 中学校・高等学校「教科家庭」の模擬授業の実施・検討とまとめ（担当：末弘）					
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
テキスト					
中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究刊編					
参考書・参考資料等					
特になし					
学生に対する評価					
・平常点等（100点） 平常点等配点内訳： A 教職系60％【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】 B・C 教科系30％【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10％の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位		教科担当教員：佐藤万寿美 教職担当教員：中野 貴	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20 人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
教員の連携・協力体制 ①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当方で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
授業の到達目標及びテーマ (テーマ) 1. 中学校や高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。 (到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨牀的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
授業の概要 高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要（担当：中野） 第2回 教員の職務と資質・能力（担当：中野） 第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：中野） 第4回 ICTの活用と学校教育（担当：中野） 第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：中野） 第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：中野） 第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：中野） 第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：中野） 第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：中野） 第10回 道德教育の指導と計画（担当：中野） 第11回 「情報」授業の固有性と実践課題①（講義）（担当：佐藤） 第12回 「情報」授業の固有性と実践課題②（演習）（担当：佐藤） 第13回 模擬授業とカンファレンス①「情報Ⅰ」（担当：佐藤） 第14回 模擬授業とカンファレンス②「情報Ⅱ」（担当：佐藤） 第15回 総まとめ（求められる教師像と使命感）（担当：佐藤） 以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編					
参考書・参考資料等 検定教科書『情報Ⅰ』『情報Ⅱ』（出版されている教科書） 『これからの情報科教育「情報科教育法」』（徳利利春、高橋参吉、西野和典 編著、実教出版）ISBN978-4-407-35521-5					
学生に対する評価 ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳： A教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】 B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位		教科担当教員：田中真由美 教職担当教員：大倉健太郎	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20 人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
教員の連携・協力体制					
①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当方で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
授業の到達目標及びテーマ					
(テーマ) 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。					
(到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業(模擬授業を含む)について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
授業の概要					
高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要(担当：大倉)					
第2回 教員の職務と資質・能力(担当：大倉)					
第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割(担当：大倉)					
第4回 ICTの活用と学校教育(担当：大倉)					
第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導					
第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導(担当：大倉)					
第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援(担当：大倉)					
第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援(担当：大倉)					
第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携(担当：大倉)					
第10回 道德教育の指導と計画(担当：大倉)					
第11回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(1)－教材理解力－(担当：田中)					
第12回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(2)－指導計画力－(担当：田中)					
第13回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(3)－授業実践力－(担当：田中)					
第14回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(4)－授業省察力－(担当：田中)					
第15回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(5)－授業でのICT活用力－(担当：田中)					
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
テキスト					
中学校学習指導要領(平成29年告示)、高等学校学習指導要領(平成30年告示)、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説(以上、文科省のHPで閲覧可能)、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編					
参考書・参考資料等					
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編(文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編・英語編(文部科学省)					
学生に対する評価					
・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：					
A教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】					
B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。